

平成 30 年度文部科学省

「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」

即興型英語ディベートの指導者育成に関する

遠隔研修の開発

平成 30 年度 成果報告書



2019 年 3 月

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

はじめに

本調査研究は、「平成 30 年度 教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」として、文部科学省より委託されたものです。

本事業で取り扱う即興型英語ディベートは、効果的なアクティブラーニングの一つでもあり、教育現場での活用が期待されます。提案の即興英語ディベートは、部活動などで特別に取り組む生徒のみを対象とするのではなく、一般の授業において導入できるよう設計、工夫された形式であることが特徴です。英語で話す力、論理的思考力、幅広い知識、プレゼンテーション力、積極性などを総合的に鍛えやすい取り組みです。これまで全国 800 校以上への紹介をまいりました。次期学習指導要領における英語の新科目案には「論理・表現」が挙げられ、ディベートといった言語活動も示されています。授業内の 50 分で完結できる本即興型英語ディベートの形式は、そのような新しい科目でも活用されることが期待されます。

PDA では昨年度の文部科学省事業において、教員自身が即興型英語ディベートを経験し、指導する力を身に付けられるよう、神奈川県教育委員会と連携した研修を行いました。教員が公務として本格的に即興型英語ディベートを実践し、指導（教育的配慮を伴うジャッジ）する継続的な研修が可能となりました。教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組みとして、表彰と PDA 認定教育ジャッジの認定制度を構築しています。特に、認定試験自体が、アクティブラーニング型の実技であり、指導力に直結する内容であることが特徴です。一方、上記のような研修について、神奈川県だけでなく、他地域からも参加を希望する声があがりました。常日頃多忙な教員が実地研修へ継続的に向かうことは、時間や場所の制約上、困難な場合があることも課題です。そこで、本事業では、オンラインシステムを用いた遠隔研修を企画、実施いたしました。

本調査研究および報告書作成にあたり、貴重なご意見、ご助言をくださいました教育委員会はじめ多くの教員、関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

代表理事 中川 智皓

【テーマ4】一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

目的・概要等

本事業では、アクティブラーニング形式である即興型英語ディベートに着目し、教員自身のディベート実践、生徒への指導（ジャッジ）方法の習得のための研修を、オンラインを含めて開発する。また、教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組みとして、表彰と認定制度を導入する。

実施方法等

1. 教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの実施、遠隔システムの効果調査

- ・複数回の研修会プログラム（教育委員会と連携した公務参加）
- ・オンライン研修プログラム（遠隔地の教員参加の促進、効率的な場の構築）

2. 教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築

- ・表彰：生徒のアクティブラーニングを促しつつ、指導に関わる自らの資質能力を高めるモチベーション向上のための表彰
- ・PDA認定教育ジャッジ制度：認定試験自体がアクティブラーニングの要素を持ち、指導力に直結する資格制度

成果目標等

- ✓ 授業導入に関する説明の強化。教員同士の授業導入事例の情報交換実施。

- ✓ 遠隔システムでの研修方法を踏まえた研修アプローチの提案。

- ✓ 生徒のディベート実践の場（交流大会や全国大会）を活用した表彰制度の確立。

- ・教員の主体的な学び
- ・授業への導入

研修



遠隔システムの導入

- ・主体的な学びの評価
- ・モチベーションの向上

表彰



- ・見える形で成果を実感
- ・質の高い授業提供

認定



- ✓ 認定教育ジャッジの制度の活用。目標：25名の受験。

目次

はじめに

1. 調査の概要

- 1・1 課題認識
- 1・2 調査研究の目的
- 1・3 調査研究の内容
- 1・4 調査研究体制

2. 調査研究の方法と結果

2・1 教員オンライン研修

- 2・1・1 第1回 6月30日
- 2・1・2 第2回 7月13日
- 2・1・3 第3回 7月20日
- 2・1・4 第4回 8月8日
- 2・1・5 第5回 9月8日
- 2・1・6 第6回 9月13日
- 2・1・7 第7回 10月6日
- 2・1・8 第8回 10月23日
- 2・1・9 第9回 11月23日
- 2・1・10 第10回 2月26日

2・2 神奈川県教育委員会との連携研修・大会

- 2・2・1 学力向上進学重点校エントリー校4技能指導法研究グループ第1回研究会 7月18日
- 2・2・2 学力向上進学重点校エントリー校4技能指導法研究グループ第2回研究会 8月17日
- 2・2・3 学力向上進学重点校エントリー校4技能指導法研究グループ第3回研究会 9月3日
- 2・2・4 学力向上進学重点校エントリー校4技能指導法研究グループ第4回研究会 10月3日
- 2・2・5 第4回PDA 神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会 11月3日
- 2・2・6 学力向上進学重点校エントリー校4技能指導法研究グループ第5回研究会 12月3日
- 2・2・7 学力向上進学重点校エントリー校4技能指導法研究グループ第6回研究会 1月11日

2・3 神奈川県立高等学校・県立中等教育学校教員対象即興型英語ディベート教員研修会

- 2・3・1 第1回 9月26日
- 2・3・2 第2回 10月22日

3. 考察

- 3・1 オンライン研修における考察
- 3・2 実地研修における考察
- 3・3 有識者コメント

京都府総合教育センター 研修・支援部 研究主事兼指導主事 大槻裕代

おわりに

1. 調査の概要

1・1 課題認識

Society5.0 など技術進歩がめまぐるしく、社会の変化が速まる中、学校現場では時代に
応じた形で、新しい課題に対する指導力が求められる。そこで、教員の資質能力の向上
は、最も重要な課題の一つである。本調査研究では、昨今求められる筆記試験では評価が
困難な多様で総合的なスキル（英語で話す力、論理的思考力、幅広い知識、プレゼンテー
ション力、積極性など）を鍛える手法として即興型の英語ディベートを取り扱う。即興型
英語ディベートはアクティブラーニング形式であり、次期学習指導要領案にある「論理・
表現」などの新科目にも導入できることが期待され、授業での実践が少しずつ広がってき
ている。しかしながら、このような新しい学習方法に対して十分な指導ができる教員がか
なり少ないのが現状の問題である。また、教員自身がアクティブラーニングとして即興型
英語ディベートの経験をしたことがないことや、新たな課題に対する指導法を自己研鑽し
ていくモチベーションが上がらないことも課題である。そこで、本調査研究では、教員に
求められる新しい指導力の一つとして、教員自身の即興で英語ディベートができる力を身
に付ける研修、および教員が生徒にその指導が可能となる研修プログラムを開発、実践す
る。また、中教審第 184 号（答申）で述べられている「教員が学び続けるモチベーション
を維持するため、教員の主体的な学びが適正に評価され、学びによって得られた能力や専
門性の成果が見える形で実感できる取組や制度構築を進めることが必要である。」という
点を踏まえ、認定教育ジャッジの制度をはじめとした、学び合い、高め合うモチベーショ
ンが上がり、継続する仕組みを導入する。

さらに、教員は日々多忙であることが実情であり、へき地など研修へ毎回出向くことが
負担な場合が多い。できるだけ手軽に効率的に参加できる研修システムの構築も課題であ
る。そこで、本事業では、遠隔システムを用いた即興型英語ディベート研修を構築、調査
する。

< 参考研究 >

文部科学省助成事業 高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」

テーマ：即興型英語ディベートを活用した統合型ルーブリック評価の研究

平成 25 年度～平成 27 年度 研究代表者：大阪府立大学 工学研究科 助教 中川智皓

平成 28 年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

実施テーマ「民間教育事業者の力を活用した教員の資質能力向上事業」

主題「即興型英語ディベートを用いた教員の研修プログラムの開発・実施」

平成 29 年度文部科学省「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」

主題：即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

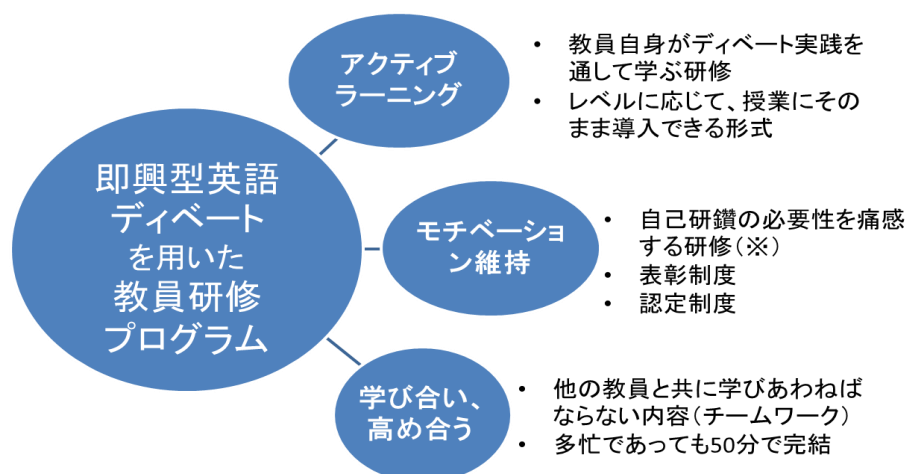
1・2 調査研究の目的

本調査研究では、近年学校現場で求められるアクティブラーニングの一つである即興型英語ディベート（※）の指導が可能となる研修プログラムを開発・実施すること、また主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度構築を行うことを目的とする。

※即興型英語ディベートとは、一つの論題に対し、肯定と否定に分かれ、聴衆（ジャッジ）を説得させるパブリックスピーチ型のディベートである。論題は、社会、政治、環境、技術、国際問題など多岐にわたる。論題が発表されてから 15 分程度の短い準備時間の後、ディベートを開始する。ディベートをする者は、肯定か否定チームのいずれに属するかを自ら選ぶことはできず、自身の意見とは異なる観点からの主張も考えなければならないことがある。（一方、古くから日本で行われているディベートは、数週間から数か月、一年間同じ論題で証拠資料を収集し、試合でそれを読み上げて証明する「準備型」が主流であった。）世界では、教育現場にて即興型のディベートが広く導入されており、ブレア元首相など政治家をはじめ、多くの人々が即興型のディベートで培った力を活かし、グローバルに活躍されている。

1. 教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの提案、実施

2. 教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築



(※自己研鑽のモチベーションを高めるとの回答が希望者研修でほぼ 100%、全員研修で 81%、N=232。平成 28 年度文科省事業 即興型英語ディベートを用いた教員の研修プログラムの開発・実施報告書より)

1. 教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの実施、遠隔システムの効果調査

- ・昨年度の文科省事業成果をもとに再構築した研修プログラムの提案、実施
- ・遠隔システムを用いた研修の提案、実施

＜ポイント＞

- ✓ 研修後、できるだけ早く授業で実践できるよう、授業導入に関する説明の強化。教員同士の授業導入事例の情報交換実施。
- ✓ 遠隔システムでの研修方法を踏まえた調査、研修アプローチの提案。
- ✓ 初任者研修等への導入の可能性、効果、課題の調査。

2. 教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の導入をすることである。

- ・表彰
- ・PDA 認定教育ジャッジ（※）

＜ポイント＞

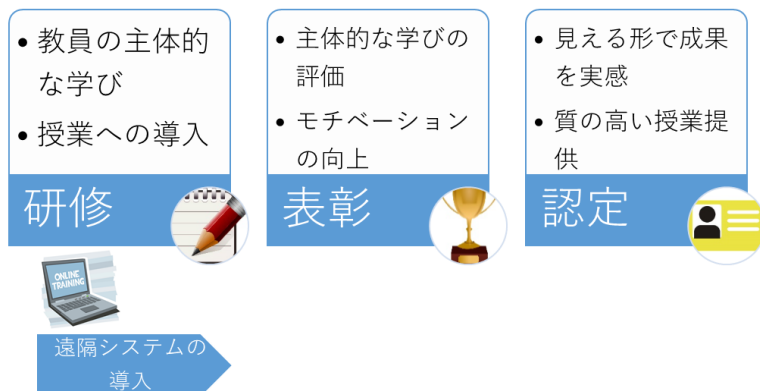
- ✓ 生徒のディベート実践の場（交流大会や全国大会）を活用した表彰制度の確立。
- ✓ 認定教育ジャッジの制度の活用。目標：25名の受験。

※認定教育ジャッジとは、学校授業内で即興型英語ディベートの教育的な指導ができるジャッジである。

ディベート実践6回、ジャッジ実践6回の経験後、認定教育ジャッジ試験の受験を可能とする制度である。試験は、筆記試験、ディベート実技、ジャッジ実技の3項目からなる。

<http://www.pdpda.org/pda-1>

試験の仕組みはすでにできており、受験者実績もあるため、**十分な実現性**があるといえる。なお、認定教育ジャッジ試験は、オンライン（カメラ、マイク付きPC）で受験可能である。



提案の調査研究目的・概要

1・3 調査研究の内容

1. 教員自身の即興型英語ディベートの実践また生徒への指導（ジャッジ）方法習得のための研修プログラムの実施、遠隔システムの効果調査

研修方法 A：研修会プログラムの深化

教員が即興型英語ディベートを学び、効果的に資質能力を高めるには、複数回の研修プログラムが効果的である。しかし、多くの場合、教員は日々の業務で多忙なため、必ずしも複数回の研修プログラムが機能するとは限らない。一方、本調査研究では、2017 年度に神奈川県教育委員会との連携で、教員が公務として参加できる研修会（1 回あたり 2 時間）の複数回プログラム（6 回）の設定を可能とした実績を有する。昨年度の知見を活かし、プログラム内容の深化、実施、課題の調査を行う。特に、昨年度即興型英語ディベートの授業導入を行った教員による発表、また経験者がレベルアップできるプログラムの追加、初参加者とともに高めあえるサステイナブルなシステムを目指す。

研修方法 B：研修プログラムの普及＜オンラインでの研修における調査＞

アクティブラーニング形式で行う即興型英語ディベートの教員向け研修は、これまでの調査研究において、高い満足度が示され、各地から研修の依頼が増えている。また、遠方の地域の教員も移動の負担をできるだけ抑えて参加できる研修も望まれている。そこで、ここでは、各地の教育委員会と連携し、**効率性**を図るためのオンライン研修（遠隔ディベートシステム）を導入する。オンライン研修の構築にかかる課題や効果を調査する。

以上により、上記研修方法 A,B は、前年度の成果および課題を効果的に踏まえた研修内容と言える。また、参加者のアンケート、有識者ヒアリングによる調査結果を成果報告書にまとめる。

2. 教員の主体的な学びが評価され、成果が見える形で実感できる取り組み、制度の構築

✓ 表彰

日常的な学校業務において、教員の主体的な学びが評価される、また高めあうために競うなどの機会はほとんどない。そこで、本調査研究では、生徒がディベートをする機会（交流大会や全国大会）を利用し、教員が生徒に指導（ジャッジ）する場を設ける。ディベート後に、教員が参加生徒一人一人へフィードバックする際の指導内容（励ましなどの教育的配慮も含む）について、参加生徒も評価し、その評価に応じて、上位の教員を表彰する。生徒のアクティブラーニングを促しつつ、指導に関わる自らの資質能力を高めるモチベーションにつなげる。

✓ PDA 認定教育ジャッジ制度

1 の研修後、PDA 認定教育ジャッジ試験の受験を促す。本試験は、即興型英語ディベートの理解を確認する筆記試験のみならず、ディベート実技、ジャッジ実技があるアクティブラーニング型の試験である。試験自体がアクティブラーニングの要素を持つことが独特であり、ベテラン英語教員・英語科出身管理職からは「本内容は、英語力を測る従来の試験とは異なり、指導力に直結する資格である」とのコメントいただいている。

中教審第 184 号（答申）においても、「免許状更新講習の選択必修領域として主体的・協働的な学びの実現に関する事項を追加」の記載がなされており、アクティブラーニングの要素を取り入れた認定制度は適正性を有すると言える。

1・4 調査研究体制

実施体制		
所属部署・職名	氏 名	役割分担
代表理事	中川 智皓	全体指揮
ディベート推進委員	大賀 隆次ほか数名	研修会のマネージ、資料作成
事務局・事務局長	東芝 佳奈子	事務担当
アドバイザー	宮本 久也（全国高等学校校長協会会長）	教育界からの助言
アドバイザー	志賀 俊之（日産自動車副会長）	産業界からの助言



2・1・1

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 1 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 6 月 30 日（土）13:00-15:00

会場：各自の都合よい場所

参加者：教員 15 名（東京都 明治大学付属明治高校、群馬県立館林女子高校、千葉県、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、長野県松本県ヶ丘高校、兵庫県立千種高校、兵庫県 神戸大学附属中等教育学校、兵庫県 雲雀丘学園高校、山口県 梅光学院高校、徳島県立城東高校、熊本県 文徳高校、宮崎県立高千穂高校、宮崎県立宮崎北高校、沖縄県立球陽高校 2 名）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」の第 1 回教員オンライン研修を開催しました。今回の研修では、遠隔システム zoom を用いました。

まずは、参加者の自己紹介を、出欠およびシステム確認を兼ねて行いました。本州、四国、九州、沖縄からと遠隔にいる参加者が同じ時間を能動的に共有できるユニークな場となりました。第 1 回の研修では、まず授業の 50 分でできる即興型英語ディベートの意義やルール説明を PDA 代表理事の中川（大阪府立大学工学研究科・准教授）が行いました。また、本研修は 10 回を予定しており、PDA 認定教育ジャッジ試験受験に必要なディベート実践およびジャッジ実践各 6 回を経験できる機会を確保している旨も説明されました。

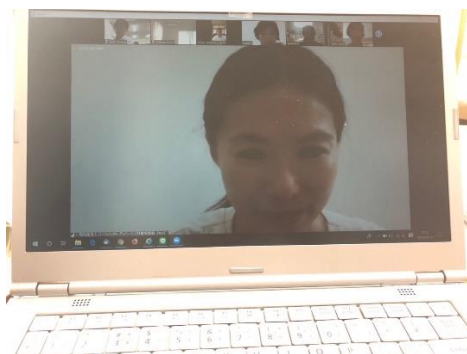


図 1 PC 画面の一例



図 2 参加者自己紹介の様子
画面上部に参加者の一部が映る（スピーカービュー）



図3 レクチャーの様子（画面共有）

その後、ディベート実践に移ります。15分の準備時間には、システム上にて各チームに分かれ、遠隔のチームメイトと論点を話し合い、スピーチシートを完成させました。初参加の教員もいたため、経験者と協力して準備を行いました。その後、メインルームに戻り、注意点を確認後、各グループにてディベート実践を行いました。今回の論題は、High school students should have part-time jobs.（高校生はアルバイトをするべきである。）でした。遠隔システム上でもPOIが出、質問したり、No thank you.と断られたり、議論が繰り広げられました。各グループでのディベート実践後は、物理的な握手はできなかったものの、エア握手を行いました。また、ジャッジからのフィードバックにて、勝敗、その理由、個人コメント（よかった点および改善点）が説明されました。

最後に、各グループにてベストディベーターに選ばれた先生方より、本日の感想をいただき、遠隔システム上でも和気あいあいとした雰囲気の中、研修会が終わりました。

文部科学省事業 第1回教員オンライン研修にて、
ベストディベーターに選ばれた先生方

兵庫県立千種高校	先生
神奈川県立茅ヶ崎北稜高校	先生
沖縄県立球陽高校	先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- オンラインで参加でき遠隔地でも研修に参加できることが素晴らしいと思う。また丁寧にご指導くださり大変わかりやすかったです。他の先生方のお話もきけるので、参考になりました。思うように英語が出ず、自己研修の必要性を実感しました。ありがとうございました。
- online ディベートは初めてでしたが、とても面白かったです。今後はジャッジの資格をとることを目標にしています。よろしくお願いいたします。
- ディベーターとして自分の至らなさを実感できたり、普段お会いできない先生からの確なジャッジをしていただくことで、ジャッジとしても学ぶことが多かった。自宅で研修を受けることができたことも時間的、体力的にとってもありがたかった。
- いつもの研修と何の遜色なく、かつ全国の先生方とディベートができることに感動した。
- 今日とはとりあえず時間通りにログインすることに頭がいてしまい、スピーチシートなどを準備できなかったのも、次回は手元に置いて臨みたいです。
- とても面白かったです。継続的に参加したいです。仕事がなければ...
- 初めてのオンライン研修でしたが、普段お会いできない先生とディベートができて想像以上に楽しかったです。音も画像もクリアで、問題ありませんでした。
- パソコンのトラブルなどで、あせってメモがどこに行ったのかわからなくなってしまったので、半分の情報しか言えなかった。生徒たちと何度もトレーニングしたい。また、近くの高校などと一緒にやってみたい。
- スマホで今回参加をしたのですが、電波が悪かったのか、皆で共有している場面で画像がながれなかったり、聞こえづらかったところがありました。
- 前回は大阪まで行き、先生のご指導を受けましたが、今回は自宅で同じ体験ができるのですごく画期的で、これが情報化社会だと実感しました。この方法が広まると出張もかなり減るし、人は移動しなくてよくなりますね。凄い体験ができました。
- 生徒たちからディベートをやりたいという意見が出てきているので、ルールをマスターするには、自分がやってみるのが一番だと思いました。ですから、今回は非常に有意義でした。



2・1・2

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 2 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 7 月 13 日（金）16:00-18:00

会場：各自の都合よい場所

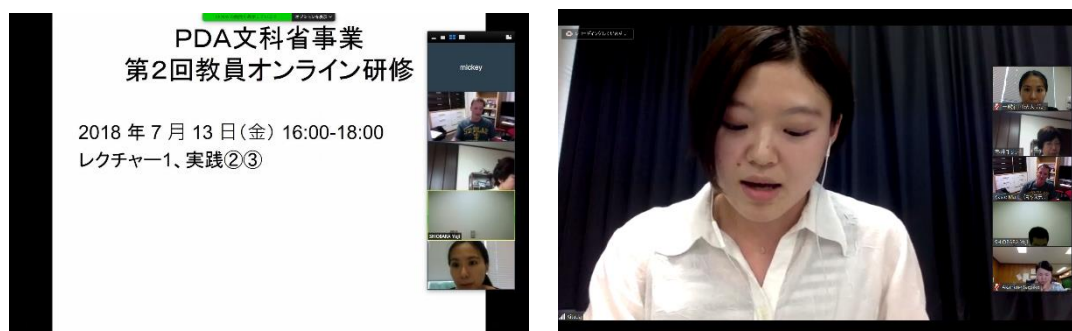
参加者：教員 10 名（東京都 富士見中学高等学校、千葉県 大妻中野中学校高等学校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、福井県立藤島高等学校、兵庫県立千種高校、兵庫県 神戸大学附属中等教育学校、兵庫県 雲雀丘学園高校、大阪府 浪速高等学校、沖縄県立知念高等学校、沖縄県立球陽高等学校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」の第 2 回教員オンライン研修を開催しました。今回は、初の平日開催であったこともあり、学校勤務の都合により、前回よりも参加者が減りました。

今回のレクチャーでは、「立論」について、解説を行いました。サインポスト、現状分析、A R E A（Assertion, Reason, Example, Assertion）の 3 点について、確認しました。

次に、ディベート実践です。第 1 ラウンドは、Japan should accept more refugees.（日本はもっと難民を受け入れるべきである。）、第 2 ラウンドは、Japan should accept more immigrants.（日本はもっと移民を受け入れるべきである。）でした。似たような論題ですが、難民と移民の違いをしっかりと理解することで、優先される論点が変わってきます。実践を行うことで、どこまで自分が分かっている、どこまでうまく言えなかったのか、など反省することができます。



文部科学省事業 第2回教員オンライン研修にて、
ベストディベータに選ばれた先生方

(兵庫県) 雲雀丘学園高校 [redacted] 先生
沖縄県立球陽高校 [redacted] 先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ジャッジの先生達、中川先生からの丁寧なアドバイス、ディベートの実践練習、基本の確認ができた。
- 毎回思うのですが、ディベート経験者（それもかなりの）さんからのフィードバックが頂けるのは非常に参考になります。オンラインでメンバーとのやりとりが限られるというのを抜きにしても、こんなに有意義な講習はないなと思います。
- 個人コメントがとても適切で、今後のディベートに役立つものだったため。
- It provided my first chance to experience PDA as a debater. I need this to become familiar with the rules, timing and flow.
- 移民と難民の違い、skilled, low skilled worker の区別など、用いる用語の定義を意識することを学べた。
- 準備時間、スピーチ時間ともに、時間配分の難しさを改めて感じました。身近なテーマでしたが、やはりとても難しかったです。ジャッジの先生たちはあんなに短時間で、一人ひとりに的確なアドバイスをされていて本当にすごいなと思いました。
- 準備時間で余裕が出てきたのは成長だと思います。以前は緊張するだけで終わっていたので。今後は①自分の考えていたことを100%表出すること。②ディベート的な考え方をもっと身につけること（未だにジャッジの方のコメントが毎回新鮮。つまりそれだけメタで分かっていない）③相手に分かりやすく、かつ強い議論や反論を出せるようにしたいです。次回もよろしくお願いいたします。
- motion の一つ一つの言葉をもっと丁寧に definition することを再認識することができた。また、これからはもっと顔を上げてスピーチできるようがんばりたいです！
- This training is really essential to understanding PDA and helping me be able to empathize with my students when they are themselves participating. The feedback offered to all of us was really helpful, even though my comprehension of Japanese leaves something to be desired.



2・1・3

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 3 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 7 月 20 日（金）16:00-18:00

会場：各自の都合よい場所

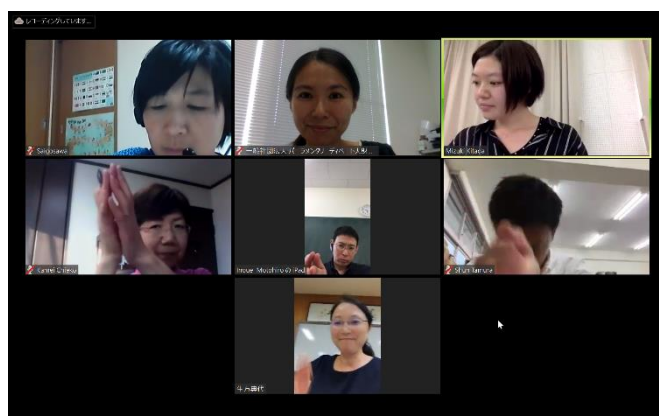
参加者：教員 6 名（東京都 明治大学付属明治高校、群馬県立館林女子高校、群馬県立前橋高校、千葉県、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、兵庫県立千種高校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」の第 3 回教員オンライン研修を開催しました。前回に引き続き、平日開催であり、中には年休をとって参加してくださった先生もいらっしゃいました。

今回のレクチャーでは、「反論」について、解説を行いました。反論の手順、否定の方法、部分否定の方法の 3 点について、確認しました。

次に、ディベート実践です。第 1 ラウンドは、Convenience stores should be closed late at night.（コンビニの深夜営業は禁止すべきである。）、第 2 ラウンドは、Cosmetic surgery should be banned.（美容整形は禁止されるべきである。）でした。参加者は、早速、レクチャーで説明があった「反論」の方をうまく使い、よいディベートラウンドとなりました。また、コンビニを「深夜」に営業すること、「美容」に関する手術であること、など、論題において、重要になる点を明確にして、議論を構築していく必要性を確認しました。



←議論のあとのエア握手。

文部科学省事業 第3回教員オンライン研修にて、
ベストディベータに選ばれた先生方

群馬県立前橋高校 ■■■■■ 先生
神奈川県立茅ヶ崎北陵高校 ■■■■■ 先生

POI 賞に選ばれた先生

兵庫県立千種高校 ■■■■■ 先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- motion をとおして、生徒が陥りやすいポイントの提示があり、授業に役立ちそうだった。
- 本日のディベートの練習では、レクチャーを受けたこともあって、効果的な反論について考えるようにしました。どうすれば相手側の主張の反論点を探せるかは非常に難しく、今後の大きな課題でもあると思います。また、今後のもう一つの目標として、反論を自分のチームの主張に生かすかもしっかり考えていきたいと思います。本日もありがとうございました。
- ディベート実践を続けることの大変さも感じますが、それ以上に PDA の皆様のサポートのおかげで充実感を感じることができます。本当にありがとうございます。
- 遠隔でありながら、かなり有意義な研修となった。自分がディベートする機会はなかなかないので、とても楽しく研修できた。
- ジャッジが素晴らしい！
- 毎回新しいことを学ぶことができ、またそれを使おうとすることでさらに身につくことが増え、自身の成長を実感できるから。さらに、授業の中で生徒を対象にどう指導すると効果的かについても学ぶことができるから。



2・1・4

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 4 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 8 月 8 日（水）16:00-18:00

会場：各自の都合よい場所

参加者：教員 7 名（群馬県立館林女子高校、群馬県立前橋高校、千葉県 大妻中野中学校高等学校、東京都 富士見中学高等学校、兵庫県 神戸大学附属中等教育学校、兵庫県立千種高校、沖縄県立球陽高等学校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

今回のレクチャーでは、「POI（質疑応答）」について、解説を行いました。POI の種類やタイミングについて、確認しました。

次に、ディベート実践です。第 1 ラウンドは、Death penalty should be abolished.（死刑を廃止すべきである。）、第 2 ラウンドは、Japan should introduce compulsory voting.（日本は義務投票制を導入すべきである。）でした。レクチャーで説明があったこともあり、POI が非常によく飛び交う実践ラウンドとなりました。2 ラウンドともに、古典モーションと呼ばれる古くから議論される対立軸がはっきりした内容でした。罰の程度や権利と義務について考えました。また、ラウンドにおける効果的な POI についても確認できました。



オンラインにおいても、POI！

文部科学省事業 第4回教員オンライン研修にて、
ベストディベータに選ばれた先生方

神戸大学附属中等教育学校 ■■■■■ 先生
富士見中学高校 ■■■■■ 先生

POI 賞に選ばれた先生

大妻中野中学校高校 ■■■■■ 先生
群馬県立前橋高校 ■■■■■ 先生
兵庫県立千種高校 ■■■■■ 先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 夏休み中で、普段より時間の余裕があり、良かった。また、POI のポイントやコツが分かり、実践に生かすことができた。
- 1) 普段は自分をする機会がなく、しばらく実践をしていなかったなので、生徒の指導には実践が必要だと思うので実践の機会として。2) ジャッジのコメントが非常に的確で、褒める→指摘する→改善点、の仕方が生でやったものにコメントをいただけたのが勉強になりました。
- 次回はジャッジにも挑戦してみたいと思います。
- 有効な POI の内容とタイミングを実践を通して体験できた。
- 論理の筋道を英語で理解しようとしているうちにごちゃごちゃとなってきた、反論のポイントがずれていった的確な反論ができなくなっていく...と感じますが、でもディベートは楽しいです！生徒も同じように楽しさを味わえるようにしたいです。あさってからの合宿・大会参加予定です。よろしくお願いします。
- 高校3年生の担任で進路指導で忙しくなかなか参加できなかったのですが、2回目の参加をさせていただき、本当にありがたかったです。やってみるのは指導とは違いあたふたするものの、実際にレクチャー、実践、フィードバックのプロセスが生徒へのフィードバックに繋がります。ありがとうございます。
- 毎回ジャッジの先生からの的確な評価に圧倒されています。この対立軸の重要性を強調するファクターは。。。など、こんな視点で評価していくのか、という今日も驚きの連続でした。
- 繰り返しになりますが、本研修ではまさに今、英語の教員に必要な技能を身に付けられるまたとない機会であり、来年度以降もぜひ継続していただきたいです。



2・1・5

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 5 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 9 月 8 日（土）10:00-12:00

会場：各自の都合よい場所

参加者：教員 5 名（東京都 明治大学付属明治高校、千葉県 大妻中野中学校高等学校、大阪府 関西創価高校、兵庫県立千種高校、沖縄県立知念高等学校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

今回のレクチャーでは、「ジャッジの方法」について、解説を行いました。ジャッジの手順や個人コメントを準備する際の工夫について、確認しました。

次に、ディベート実践です。第 1 ラウンドは、Overtime regulations will enrich Japan.（残業規制は日本を豊かにする。）、第 2 ラウンドは、All schools should be co-education.（すべての学校は共学にすべきである。）でした。ジャッジ実践では、参加者自身が勝敗を考え、1. 勝敗の発表、2. 勝敗の理由、3. 個人コメントの手順に従って、10 分以内でジャッジコメントをすることができました。その後、講師より、参加者によるジャッジのフィードバックを行いました。PDA 認定教育ジャッジのジャッジ実技試験でも同様の項目がチェックされるため、試験受験前の練習にもなりました。



実践の様子

文部科学省事業 第4回教員オンライン研修にて、

ベストディベーターに選ばれた先生

明治大学付属明治高校 ■■■■■ 先生

P O I 賞に選ばれた先生

大妻中野中学校高校 ■■■■■ 先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 集中して行い、2時間があっという間に過ぎてしまいます。
- 毎回次につながる新しい発見がある。また、授業導入のヒントをいただける。
- ジャッジの仕方に関して、コメントをいただけてとても分かりやすかったです。
- 初めてオンラインジャッジをさせていただきました。今まで生徒のジャッジをしたときも、今回も、個人コメントまで頭が回りませんでした。そのため、良いポイントに○をしておいたり、改善点に□をしておくなど、具体的なアドバイスはありがたかったです。実践したのですが、結局個人コメントをする段階になって言い忘れてしまいました…。まだまだ経験値が足りない段階だと思うので、まずはディベート・ジャッジを多く経験して、見えてきたものを授業に還元できるように頑張りたいと思います。
- 今回、ジャッジの役目を意識して、フローシートを使ってラウンドをしてみたところ、ジャッジコメントがしやすいことがわかった。今回はしり込みしてしまったが、次回、ジャッジにも挑戦してみたいと思った。
- ジャッジとして、ディベーターのスキルアップにできるだけ貢献できるスキルを上げていきたいと思います。一人に対して1つの褒めるところ、1つの改善を指摘するのは大切であるとご指摘いただき、とてもよかったです。大変にありがとうございました。



2・1・6

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 6 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 9 月 13 日（木）16:00-18:00

会場：各自の都合よい場所

参加者：教員 6 名（東京都 明治大学付属明治高校、千葉県 大妻中野中学校高校、神戸大学附属中等教育学校、兵庫県立千種高校、鹿児島情報高校、沖縄県立球陽高校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

今回のレクチャーでは、「定義」について、確認しました。授業でのディベート論題の設定の際は、基本的には定義なしでも問題なくできるようにすることが望めます。しかし、定義をするのであれば、どのような範囲であれば効果的であるか、解説がなされました。

次に、ディベート実践です。第 1 ラウンドは、Living in the countryside is better than living in the city.（都会に住むよりも田舎で過ごした方がよい。）、第 2 ラウンドは、Soft drink sugar tax should be introduced.（砂糖税を導入すべきである。）でした。今回もジャッジ実践を希望する参加者が出て、1. 勝敗の発表、2. 勝敗の理由、3. 個人コメントの手順に従って、ジャッジコメントを行いました。その後、講師より、参加者によるジャッジおよびディベーターへのフィードバックを行いました。



実践の様子（オンラインでも身振り手振りが素晴らしい）

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ジャッジコメントがスムーズにできるように練習していきたい。
- it was the first time to judge at this level, insightful
- 毎回の研修ありがとうございます。今回は **definition** についてだったので、自分もよくわからない部分であり参考になりました。以前の合宿で、ものすごく細かく **definition** をする高校生がいて、荒業だなと思ったのを思い出しました。
- ディベート中に、まだまだ内容のあることを考えつくということが少ないので、日々ニュース等で考えを深めていたい。同時に、効果的な英語表現も身に着けたい。
- 毎回あっという間に2時間が過ぎてしまうということに驚いています。"
- ジャッジとして議論を進行しながら、全体の対立軸の優劣や、各個人の良いところと課題点を見つける訓練をたくさん積む必要性を痛感しました。今後ご指導お願いします。
- I enjoyed today's debate. It's great to debate with other teachers from Japan. My main goal is to improve my judging ability, specifically with regards to constructive comments to help debaters improve.
- ジャッジでの判断とコメントにいつも悩んでいます。今日の中川先生のコメントを見て、次はジャッジにチャレンジしてみたいと思いました。生徒へ還元してあげられるのはやはりジャッジでのコメントだと思います。いつもありがとうございます。



2・1・7

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 7 回 教員オンライン研修

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 10 月 6 日（土）10:00-12:00

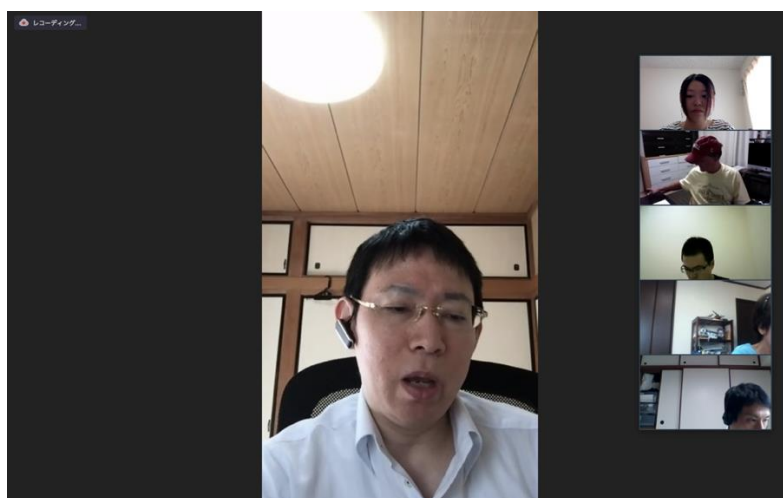
会場：各自の都合よい場所

参加者：教員 8 名（東京都 明治大学付属明治高校、千葉県 大妻中野中学校高等学校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校、愛知県立千種高校、兵庫県 雲雀丘学園、鹿児島県 志学館高校、沖縄県立球陽高等学校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

今回のレクチャーでは、「スタンス（チームとして最も伝えたい押しどころ）」について、解説を行いました。相手との違いや差を意識したり、立論と反論に一貫性を持ったりすることに繋がるということを確認しました。

次に、ディベート実践です。第 1 ラウンドは、Promoting studying abroad for Japanese students will save Japan.（日本の生徒・学生に対する海外の留学促進は、日本を救う。）、第 2 ラウンドは、Government should restrict the time spent on online games.（国は、（PC 及びスマホの）オンラインゲームの利用時間を規制すべきである。）でした。ジャッジを希望した参加者が勝敗の発表、勝敗の理由、個人コメントを実践しました。その後、講師より、ジャッジ実践をした参加者へのフィードバックを行いました。実際にジャッジしてみることによりディベートをする際に意識すべきことを深く学ぶことができました。



実践の様子

文部科学省事業 第7回教員オンライン研修にて、
ベストディベーターに選ばれた先生
明治大学付属明治高校 XXXXXXXXXX先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- （実際にジャッジをしてみて）ジャッジの勉強になりました。
- 様々な観点を考慮してさらにディベートしていきたい。
- 私だけ初心者で周りにご迷惑をかけたが、なんとか残りの研修にも参加してまだ体験していないポジションを経験し、指導に役立てたい。
- POI に答えてみようとしたが、焦ってうまく答えられず、その後の LO の段取りも残り時間が気になって飛ばしてしまいました。次はきちんとタイムマネジメントしつつ、段取りをしっかり押さえて丁寧にディベートを組み立てていきたい。
- ジャッジを務める際に、スピーカーに何を説明してほしいかを自分なりに整理しておく必要があることを改めて感じました。これからもしっかり勉強させていただきます。
- 今回の論題はだいぶ社会的な話題になってきて、ニュース等でも情報が入っていた内容だったのですが、その事前の知識をなかなか反映できない悔しい思いをしました。習った知識や社会的な知識を後悔なく使い切れるラウンドを目指したいです。



2・1・8

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 8 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 10 月 23 日（火）16:00-18:00

会場：各自の都合よい場所

参加者：教員 5 名（東京都 明治大学付属明治高校、群馬県立前橋高校、兵庫県立千種高校、鹿児島 志学館高等学校、沖縄県立球陽高等学校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

今回のレクチャーでは、「論題設定」について、解説を行いました。授業でディベートを行うにあたり、①定義しなくても、そのままディベートできるものがよい、②肯定、否定の論点が、教員自身ですぐに 2 つずつ思いつくものがよい、という説明を行いました。

次に、ディベート実践です。第 1 ラウンドは、Homework assisting services should be prohibited.（宿題代行サービスを禁止すべきである。）、第 2 ラウンドは、Ambulance services should be charged.（救急車の利用を有料化すべきである。）でした。ジャッジ実践では、参加者自身が勝敗を考え、実際のジャッジの流れを実践することができました。今回の研修では認定教育ジャッジの試験のためのディベートおよびジャッジをすることが可能なため、試験受験前の練習にもなりました。



実践の様子



ジャッジ実践の様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- やっぱり理論や過去のディベートの復習よりも実際やってみることからの収穫はとても大きい。もっと多くの先生方とディベートをしたいと思いました。
- good practice, I learned a lot
- 途中からの参加でしたがありがとうございました。途中からというだけあって、言いたいことの 3 割ぐらいしか言えませんでした。なんとか試合を成立させることができて良かったです。
- どのポジションでも対応できるように、事前のメモの取り方を練習する。



2・1・9

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

第 9 回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2018 年 11 月 23 日（金・祝）10:00-12:00

会場：各自の都合よい場所

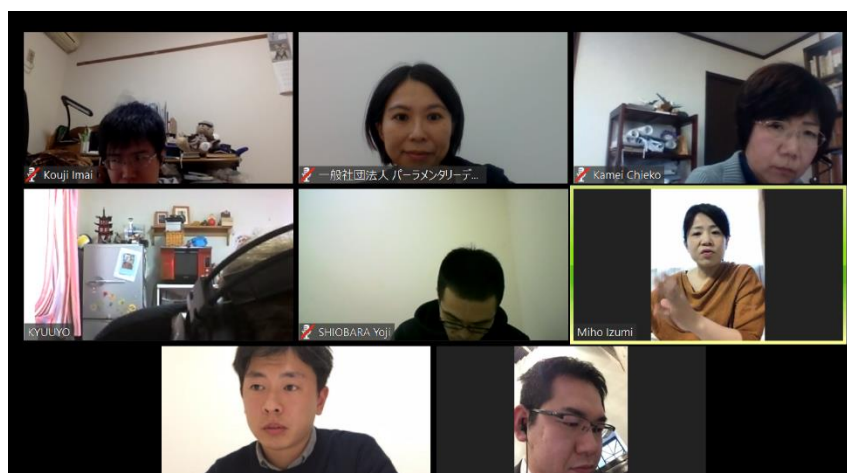
参加者：教員 6 名（東京都 明治大学附属明治高等学校、創価高等学校、大妻中野中学校高等学校、兵庫県立千種高等学校、神戸大学附属中等教育学校、沖縄県立球陽高等学校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）

今回は、最終回の教員オンライン研修でした。ディベート実践 6 回以上、ジャッジ実践 6 回以上を経験し、PDA 認定教育ジャッジ試験の受験票を提出した参加者（希望者）には、PDA 認定教育ジャッジ試験（ディベート実技、ジャッジ実技）を受験いただきました。ディベート実技およびジャッジ実技で審査員が評価する項目を最終確認しました。

ディベート実技	ジャッジ実技
・ 基本的な構成のスピーチができる。 ・ タイムマネジメントができる。 ・ POI を 1 回以上出せる。 ・ POI を 1 回以上受け、適切な返答ができる。 ・ アイコンタクトがある。（スピーチ時間の 50%以上） ・ 説明において大きな論理の飛躍が見られない。	・ 司会進行ができる。 ・ 授業時間を考慮したタイムマネジメントができる。 ・ 勝敗を出せる。 ・ 論理的にある程度納得できる勝敗の理由を述べられる。 ・ 建設的な個人コメントを述べられる。 ・ 教育的配慮に欠けない。

ディベート実践では、以下の論題を取り扱いました。第 1 ラウンドは、Cleaning of all schools should be outsourced to companies.（学校の清掃は全面的に業者に委託すべきである。）第 2 ラウンドは、It is better to have a two-dimensional boyfriend/girlfriend than having a three-dimensional one.（彼氏彼女を作るなら 2 次元の方がよい。）でした。PDA 認定教育ジャッジ試験の受験者もいたため、普段より、緊張感があるラウンドとなりました。



実践の様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 認定ジャッジの試験ということで、緊張していたが、勉強してきたことを少しは活かすことができ、授業等でも自分が学んだことと実践してきたことを生かして生徒に還元していきたいです。
- I was more nervous than usual, had some problems managing the time in one of the 2 speeches (in the LO speech) due to the necessity to accept and answer pois. In the end, I believe, I could answer those well but, at the same time, had to sacrifice valuable time and rushed a bit at the end. But all debaters had the same issue.
Also, time available for judges to give feedback was shorter than usual, which made it challenging. With only 7 min. available, I would have surely run a wiser course leaving out a lot of details and arguing on a more abstract, concise level.
I would like to express my gratitude to Miss Nakagawa & pda for your great work and the opportunity to participate in this surely meaningful seminar. It has, indeed, helped me, implement the concept effectively at my school and impact other schools in Okinawa.
Thank you!
- だいぶ論題も複雑なものになってきたようですが、落ち着いて対応できるようになったのはこの研修の成果だと思います。生徒にも同じことを伝えているのですが、「スピーキングに関して 100%満足できることは一回もない」ということを毎回直接体験できるのは、言葉以上に貴重なことだと思います。
- 今回はジャッジ検定を受けたので緊張しました。今後、学校内でのディベート普及活動にこのオンライン研修で得たことを生かしていけたらと思います。

文部科学省事業 第9回教員オンライン研修にて、
ベストディベーターに選ばれた先生

創価高校	■■■■先生
明治大学付属明治高校	■■■■先生

文部科学省平成30年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業
「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」
出席優秀賞の表彰

皆勤優秀賞（9/9回）

■■■■先生（兵庫県立千種高校）

優秀賞（半分以上出席の先生方）

■■■■先生（大妻中野中学校高校）（8/9回）

■■■■先生（明治大学付属明治）（7/9回）

■■■■先生（沖縄県立球陽高校）（5/9回）

■■■■先生（神戸大附属）（5/9回）



2・1・10

文部科学省平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

最終回 教員オンライン研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019 年 2 月 26 日（火）16:00-18:00

会場：各自の都合よい場所

参加者：教員 4 名（東京都 明治大学附属明治高校、兵庫県 雲雀学園中学・高等学校、鹿児島県立大島高校）

ジャッジ：PDA スタッフ（PDA 認定教育ジャッジ）、参加者

今回は教員オンライン研修の総まとめとして実践を 2 ラウンド行いました。第 1 ラウンドは、Valentine's Day should be abolished.（バレンタインデーは禁止すべきである。）でした。今月 14 日にバレンタインデーを経験していた参加者たちは、自分や周りの経験談を例としてスピーチに盛り込みながら詳細を伝えることができました。第 2 ラウンドは、Animal experiments should be banned.（動物実験を禁止すべきである。）でした。普段生活しているだけではあまり考える機会がない話題に苦戦しながらも、社会問題化している論題に動物の権利や人間の権利について深く分析しスピーチすることができました。ジャッジ実践では、参加者自身が勝敗を考え、1. 勝敗の発表、2. 勝敗の理由、3. 個人コメントの手順に従って、10 分でジャッジコメントをすることができました。その後、講師より、参加者によるジャッジのフィードバックや論題解説を行いました。PDA 認定教育ジャッジのジャッジ実技試験でも同様の項目がチェックされるため、試験受験前の練習にもなりました。



実践の様子

文部科学省事業 最終回 教員オンライン研修にて、

ベストディベータに選ばれた先生

鹿児島県立大島高校 ■■■■■先生

P O I 賞に選ばれた先生

明治大学付属明治高校 ■■■■■先生

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 今年度一年間ありがとうございました。また、来年度企画があればぜひ参加したいです。
- 話したことのないトピックに関して、英語が出てこないのが一番の問題です。今回は話が自分の中でもまとまらず、それを話すともっとまとまらず、相手の話も集中して聴けず、最近の研修で最低の出来になってしまいました。色々で見識を深めておかないとダメだなと思わされます。POI でラウンド全体に貢献できたのが救いでした。
- Judging is difficult. I write this mainly because it requires fast writing, quick thinking and multitasking (watching the time, considering speaker point links to previous points and how they compare, etc). It is definitely a skill that will require practice.
- 自分の英語力を知ることができた。また、ディベートも久しぶりにすることができた。

2・2・1

平成 30 年度 学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ

英語 4 技能指導法研究会 第 1 回集合研修

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2018 年 7 月 18 日（水）15:00~17:00

場所 神奈川県立柏陽高等学校（社会科教室）

参加者 17 校 25 名（横浜翠嵐 1、横浜平沼 1、横浜緑ヶ丘 2、光陵 1、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 4、多摩 1、横須賀 2、平塚江南 1、鎌倉 1、湘南 2、小田原 1、茅ヶ崎北陵 2、相模原 2、厚木 1、大和 1）

平成 30 年度学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ、第 1 回「英語 4 技能指導法研究会」集合研修において、教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、神奈川県教育委員会高校教育課指導主事の大島先生より本研修会の趣旨が説明されました。昨年度に引き続き、4 技能を高める授業を、即興型英語ディベート授業を用いて導入できるようにしていくことの旨が述べられました。

次に、4 技能指導法研究グループの担当校長である柏陽高校の井坂校長より、学力向上進学重点校エントリー校（17 校）で、本研修が行われる旨や、以下の説明がなされました。1. 各校における授業力向上の取組の一環として、組織的にディベートを授業に取り入れるため。2. 生徒の学力向上、特に思考力・判断力・表現力等の育成に繋がる教員の資質・能力及び英語力向上のため。3. 学力向上進学重点校の教員同士の交流を通して、自己研鑽意欲の向上のため。これらの一助として、教員の皆様でこの研修を作り上げていただきたい。また文部科学省においては、大学入試改革、高大接続、高等学校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、大学入学者選抜においても、「読む」「聞く」「話す」「書く」の 4 技能を適切に評価するために、評価テストの枠組みにおいて、民間業者により実施されている資格・検定試験を活用するとしており、大学受験に向けた学習も含めて 4 技能にフォーカスされたものととらえている。



教育委員会高校教育課 大島先生のご挨拶



井坂校長による趣旨説明

PDA による研修では、スカイプによる遠隔で代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科機械工学分野 准教授）より、次期学習指導要領での新科目案「論理・表現」についてもふれ、今後英語を話す環境が生徒にとってより必要になることが述べられ、即興型英語ディベートの指導の有用性が指摘されました。また、授業において、教育的配慮を伴ったジャッジができる人材を昨年に引き続き PDA 認定教育ジャッジとして認定していく制度についても紹介されました。



PDA 代表理事 中川による説明



ディベート実践の様子

その後、PDA スタッフより即興型英語ディベートのルール、それを通して身につく力、授業での導入方法および交流大会に向けての指導について簡単に説明がなされました。

参加者によるディベート実践では、4 テーブルに分けられました。各テーブルには、PDA スタッフと認定教育ジャッジの講師がジャッジとしてつきました。論題“Homework should be abolished.（宿題は廃止されるべきだ。）”が発表されると、チームで一致団結して、議論を出し合っていくことができました。論点を2つにまとめ、その後、担当ごとにわかれ、それぞれの論点の詳細をスピーチシートに記入していきます。準備時間 15 分が終わるとすぐにディベートが始まります。ディベートでは、初挑戦にもかかわらず P O I（質疑応答）をするテーブルもありました。さまざまな意見が出たディベートでした。ディベート終了後には、対戦相手と握手を交わし、和やかに会話がなされました。最後に、ジャッジからの勝敗、その理由、個人コメントが行われました。開始早々全体の静かな様子から、教員も他校の教員と打ち解け、ラウンド終了後には全てのテーブルで和気藹々とした良い雰囲気での会話が交わされました。



ベストディベーターに選ばれた先生方（第1回研修会）

先生（厚木）

先生（横須賀）

先生（相模原）

先生（柏陽）

先生（柏陽）

先生（川和）

2・2・2

平成 30 年度 学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ

英語 4 技能指導法研究会 第 2 回集合研修

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2018 年 8 月 17 日（金）15:00~17:00

場所 神奈川県立柏陽高等学校 （社会科教室）

参加者 15 校 22 名（横浜翠嵐 1、横浜平沼 3、横浜緑ヶ丘 2、光陵 1、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 3、多摩 2、横須賀 1、平塚江南 1、鎌倉 1、湘南 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 2、相模原 1）

平成 30 年度学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ、第 2 回「英語 4 技能指導法研究会」教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、4 技能指導法研究グループの担当校長である柏陽高校の井坂校長より、1.アクティブラーニング、2.進学指導、3.グローバル教育の中で、このプロジェクトは 3 に当たり「神奈川県の英語の授業を変えて行く」「英語 4 技能をあげる」ことを目的として実践していきたい。また、公務出張として行えるようになったこの研修で先生のスキルを上げることが、生徒のスキルを上げることに繋がる、とのお話をいただきました。

次に神奈川県教育委員会高校教育課指導主事の横谷先生より本研修会の趣旨が説明されました。「指導要領でディベート・ディスカッションの重要性が強調されてきたが、現状で先生がエッセイ・ライティングなどの指導をできるか、PDA の研修を通して、先生が実際に『生徒がどこで困っていて、どんな指導を求めているか』を学んでいただきたい。また先生が上手くなるのが最終目的でなく、いかに上手に生徒にフィードバックできるようになるかを考えていきたい」と述べられました。



教育委員会高校教育課 横谷先生のご挨拶



井坂校長による趣旨説明

今回の研修では、柏陽高校における授業取組事例発表が行われました。
一年生の事例として、柏陽高校の十川教諭より、ディベート導入のため、できるだけハードルを低くするために教材とリンクさせて、まずは教材の理解。次に日本語で表現して英語へ移行するステップを踏んだのち、1対1でジャッジ一人の三角ディベートを導入しました。



PDA佐々木による説明



授業導入事例発表 十川教諭の様子

次に、同じく柏陽高校の岩本教諭が二年生対象の授業導入についての現状を発表しました。

進学校で、受験で点をとるための英語を教える必要があるが、それだと使えない。ジレンマの中でPDAに出会い生徒に紹介する流れにいたっている。今後については指導を細分化して生徒にわかりやすく即興型英語ディベートの魅力伝えていきたいとの抱負を述べられました。

その後、ディベート実践が行われました。

今回は時間の限られた中でのディベート実践でしたが、今日が初めてのディベート体験という先生方も多く、実践しながらディベートのルールを習得していきました。

実践を通して先生方は、「反論や立て直しの難しさを実感した」「スピーチにおいてポイントの比較を分かりやすく表現する」「広い視野と、自分自身の言葉で論理的に考えを伝える力の重要性を認識した」など、生徒に導入する前に、自分自身の指導力の向上のために必要なスキルを熱心に追求している様子がうかがえました。



授業導入事例発表 岩本教諭の様子



講義を熱心に聞く様子

ベストディベーターに選ばれた先生方（第2回研修会）

先生（横浜平沼）

先生（茅ヶ崎北陵）

先生（平塚江南）

先生（厚木）

先生（柏陽）

先生（柏陽）

2・2・3

平成 30 年度 学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ

英語 4 技能指導法研究会 第 3 回集合研修

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2018 年 9 月 3 日（月）15:00~17:00

場所 神奈川県立横浜平沼高等学校（大会議室）

参加者 16 校 24 名（横浜翠嵐 2、横浜平沼 2、横浜緑ヶ丘 1、光陵 1、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 4、多摩 1、横須賀 2、平塚江南 1、鎌倉 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 2、相模原 2、厚木 2、大和 1）

平成 30 年度学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ、第 3 回「英語 4 技能指導法研究会」集合研修、教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、横浜平沼高校の鑑校長先生より、普段採点業務など多忙な中での研修に来ていただいた先生方への労いと、高校生がディベートをする PDA の動画を拝見し、このような活動は生徒にとって役に立つものであり、実際の授業の場で生徒の技能向上に活かしてくださいとの激励がありました。

次に神奈川県教育委員会高校教育課の時乗先生より、英語ディベートをやってみて「できない」ということへの悔しさが、英語を学ぶモチベーションになる。ディベートができるようになるのが目的でなく、いかに生徒に上手く教えて英語の総合(文法・語彙)力を上げられるかが大事であるという旨を述べられました。



横浜平沼高校 校長 鑑先生のご挨拶



教育委員会高校教育課 時乗先生の説明

PDA による研修では、ディベートのスピーチの仕方の講義が行われました。スピーチ方法を細分化し、今回は主に立論の方法についてのレクチャーをしました。スピーチの構成での具体的なロジックの立て方、その練習方法、また授業への活用方法などを一通り説明した後、タイムマネージを考えたモデルスピーチを教員の代表者に披露してもらいました。



PDAスタッフによる説明



モデルスピーチの様子

次に参加者によるディベート実践で、論題“High school students should have part-time jobs. (高校生のアルバイトを禁止すべきだ。)”のテーマが発表されると、15分の準備時間を経て議論が交わされました。

その後ジャッジからのアドバイスでは、スピーチの良かった点、改善点を説明されました。

「高校生のアルバイトを何故禁止しないと行けないのか、勉強が何故大切なのか、などの主張を肯定側否定側それぞれがなされていましたが、それぞれの重要性の説明をより詳細に説明できるようになることが次への課題です」「議題に対するメリット・デメリットは出ていましたが、それらの比較も欲しいです」などのアドバイスにしっかりとメモし、次回に活かそうとする様子が見られました。



初心者向けの個別説明



他校の教員同士による準備時間

ベストディベーターに選ばれた先生方（第3回研修会）

先生（厚木）

先生（横浜翠嵐）

先生（柏陽）

2・2・4

平成 30 年度 学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ

英語 4 技能指導法研究会 第 4 回集合研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2018 年 10 月 3 日（水）15:00~17:00

場所 神奈川県立横浜平沼高等学校（大会議室）

参加者 16 校 23 名（横浜翠嵐 1、横浜平沼 2、横浜緑ヶ丘 2、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 3、多摩 1、横須賀 1、平塚江南 1、鎌倉 1、湘南 2、小田原 1、茅ヶ崎北陵 1、相模原 2、厚木 2、大和 1）

平成 30 年度学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ、第 4 回「英語 4 技能指導法研究会」集合研修、教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、横浜平沼高校の教頭 橋井先生より、実際の授業の場で生徒の技能向上に活かすためのスキルを本日の研修で一つでも学んでいってくださいとのお話がありました。

次に神奈川県教育委員会高校教育課の鈴木指導主事より、「大きな転換期に来ている英語教育ですが、4 技能のうちの一つのスピーキング力を高めるためにディベートというのは大きな手段になります。今日の研修成果を持ち帰っていただき、各学校での活用および情報共有をお願いいたします」とのお言葉をいただきました。



教育委員会高校教育課 鈴木指導主事のご挨拶 横浜平沼高校 橋井教頭によるご挨拶

今回の研修では、まず横浜緑ヶ丘高校の近藤飛鳥教諭より、授業実践報告がありました。

即興型英語ディベートの授業導入および学習到達目標の設定に向けて、英語力の差異がある中で如何に生徒へのスピーチのモチベーションをつけていくか、試行錯誤されて取り組まれた事例を紹介されました。特に学校内での同僚やALTの協力を得ながら、ステップを踏んだディベート指導をし、授業での取り組みをしておられる様子は、

どのように授業に役立てていくかに今まで迷いがあった教員に対して、それぞれ各校の状況に合わせてながら実践していく方法の参考になったかと思われます。

近藤教諭のお話の最後に、11月15日14時～16時、横浜緑ヶ丘高校にて授業見学及び研究協議の案内がありました。



横浜緑ヶ丘高校 近藤教諭による授業実践事例



ディベート実践（質疑応答）の様子

今回の実践ですが、2テーブルに分かれました。各テーブルには、PDA スタッフと認定教育ジャッジの講師がジャッジとしてつきました。論題“*We should outsource coaching of club activities.*（クラブ活動の指導を外注すべきだ。）”のもと、ディベートが始まりました。今回の実践の中では、各学校での勤務のあるべき姿として、クラブ活動の指導において専門性がない教員の負担や、プロに指導してもらうことのメリット・デメリットを中心に話していました。最後に、ジャッジからの勝敗、その理由、個人コメントが行われました。フローシートに相手の意見を書き込むといった流れがまだ定着していないこともあり、スムーズな論理展開への次回の宿題となりました。



【研修の感想】抜粋

- ・近藤先生の授業の実践報告がとても良かったです。やはり一番重要なのは我々が如何にこの研修を授業に役立てられるか、糸に還元できるかだと改めて思いました。【鎌倉】
- ・先生方のディベートに対する真摯な取組みに感銘を受けました。ルールの徹底を生徒に促すことが大事だと感じました。【平塚江南】
- ・ジャッジにわかりやすく伝える練習を生徒と一緒に頑張りたいと思います。【湘南】

ベストディベーターに選ばれた先生方（第4回研修会）

先生（湘南）

先生（横浜緑ヶ丘）

先生（柏陽）

先生（柏陽）

2・2・5

平成 30 年度 第 4 回 P D A 神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）
文部科学省 平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

開催日時：2018 年 11 月 3 日（金）12:00-17:00

会場：神奈川県立横浜平沼高等学校

参加校：17 校（横浜平沼、横浜翠嵐、横浜緑ヶ丘、光陵、大和、川和、柏陽、多摩、横須賀、鎌倉、湘南、小田原、茅ヶ崎北陵、相模原、厚木、希望ヶ丘、平塚江南）

参加者：生徒 121 名、教員 29 名

スタッフ：PDA スタッフ、東京大学、一橋大学、名古屋大学、東京農工大学

主催：神奈川県教育委員会、一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

主管：学力向上進学重点校エントリー校連絡協議会 グローバル教育研究ワーキンググループ
4 技能指導法研究グループ

助成：公益財団法人 日本財団

文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」

開会式では、神奈川県教育委員会の鈴木先生より、「せっかくの交流大会ですので、他校の人との交流を大事にして頑張ってください。」などエールが送られました。会場校である横浜平沼高校の鎌田校長先生からは、「グローバル化した社会の中で君たちがリーダーになっていくことを期待します。日本語では説明できることを英語にできないもどかしさを感じることもあるかもしれませんが、大事なのは頑張る勇気です。」ということが述べられました。柏陽高校の井坂校長先生からは、「今大会では英語で話す力は大事ですが、最も大事なことは論理的に考えるということです。チームメイトと一緒に協力していいパフォーマンスを発揮できるように頑張ってください。」と励ましのお言葉をいただきました。

次に、PDA 代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、17 校の学校紹介があり、各校生徒が起立・一礼をし、交流に向けた挨拶となりました。ルールの復習、POI の確認を再度行いました。そして、早速 1 ラウンド目の対戦表が発表されました。



横浜平沼高校 杉田副校長



柏陽高校 井坂校長



教育委員会 鈴木指導主事



横浜平沼高校 鑪校長



大阪府立大学 准教授 中川智皓



POI の最終確認

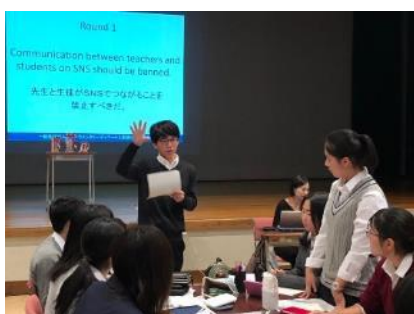
第1ラウンドのお題は「*Communication between teachers and students on SNS should be banned.* (先生と生徒が SNS でつながることを禁止すべきだ。)」でした。普段 SNS を使うことも多い生徒たちにとって身近な論題に、チームメイトに対して自分の体験談を語るなど盛り上がりました。ラウンドでは、今大会で初めて会った相手チームの高校に対して積極的に POI をするチームが多くあり、とても白熱した議論となりました。



チームメイトとの準備時間



相手の目をしっかり見て POI



続く第2ラウンドのお題は、「*We should abolish the death penalty.* (死刑制度を廃止すべきである。)」でした。日本では日々議論されているテーマであり、そのため多くの生徒が一度は考えたことのあるテーマでした。論題を見た生徒は、今まで考えてきたことをジャッジにわかりやすく伝えるためにはどうしたらよいか、相手の反論に備えるにはどのように立論をすればよいかなどについて準備時間にチームメイトと相談しました。第1ラウンド終了後に PDA 代表理事である中川から POI について「後半になると多くの POI があつたが、規定時間よりも早くスピーチが終わりがちな序盤から POI を積極的にするとよい」というアドバイスを受けた生徒たちの中には、早速 PM (Prime Minister: 肯定の1番目) に対して POI をする生徒も多く見られました。



次に、教員エキシビジョンディベートでは、生徒たちが実際にディベートを行った、第1ラウンドの論題「**Communication between teachers and students on SNS should be banned.** (先生と生徒がSNSでつながることを禁止すべきだ。)」でディベートを行いました。今回、教員エキシビジョンディベーターは、研修会でベストディベーターを獲得したことのある教員、研修会への参加頻度の高い教員、また、PDA 認定教育ジャッジの資格を持っている教員の中から選出されました。生徒や他の教員が見守る中、教員にとっても身近な論題に、「教師としてどうあるべきか」といった視点に重きを置きながら議論が展開されていきました。また、POI も活発に飛び交い、ジョークを交えたスピーチで会場の熱もどんどん上がっていきました。



選抜された教員によるエキシビジョンディベート

生徒のエキシビジョンディベートでは、「**Homework assisting services should be prohibited.** (宿題代行サービスを禁止するべきである。)」について、選出された代表6名が議論を交わしました。今大会で初めて会う他校の生徒と一緒にチームを組み、準備時間にはしっかりと意見交換をしました。活発なPOIや、聴衆にうったえかけるようなスピーチ、あえてマイクを使わずにスピーチをするパフォーマンスなどが見られ、とても甲乙つけがたい素晴らしいディベートになりました。



会場の視線を浴びながら、堂々とスピーチ

最後に、横浜翠嵐高校の佐藤校長先生より、ご講評がありました。最初はドキドキ、でも最後はheart to heart で気持ちが通じたのではないかと生徒の積極的な参加をたたえていただきました。また、是非各学校で広めてほしいとメッセージが送られました。



横浜翠嵐高校 佐藤校長

【表彰】

〈エキシビションディベータ賞〉

PM ■さん（相模原）
MG ■さん（湘南）
PMR ■さん（横浜翠嵐）

LO ■さん（厚木）
MO ■さん（横須賀）
LOR ■さん（横浜緑ヶ丘）



〈教員エキシビションディベータ賞〉

PM ■先生（湘南）
MG ■先生（茅ヶ崎北陵）
PMR ■先生（柏陽）

LO ■先生（相模原）
MO ■先生（横浜緑ヶ丘）
LOR ■先生（相模原）



厚木校長 ■先生、
川和校長 ■先生と



湘南校長 ■先生、
横浜平沼校長 ■先生と

〈チーム賞〉

1 位：横須賀、2 位：横浜翠嵐、3 位：横浜平沼、4 位：厚木、5 位：横浜緑ヶ丘



1 位 横須賀（茅ヶ崎北陵校長 ■■■先生と）



2 位 横浜翠嵐（鎌倉校長 ■■■先生と）



3 位 横浜平沼（横浜翠嵐校長 ■■■先生と）



4 位 厚木（相模原校長 ■■■先生と）



5 位 横浜緑ヶ丘（横浜緑ヶ丘校長 ■■■先生と）

〈ベストディベーター賞〉

■■■■ (相模原)、■■■■ (多摩)、■■■■ (横須賀)、
 ■■■■ (湘南)、■■■■ (横浜翠嵐)、■■■■ (横須賀)、
 ■■■■ (相模原)、■■■■ (横浜翠嵐)、■■■■ (横浜平沼)、
 ■■■■ (鎌倉)、■■■■ (横浜緑ヶ丘)、■■■■ (平塚江南)



ベストディベーター賞 (平塚江南校長 ■■■■先生と)

〈POI 賞〉

■■■■ (多摩)、■■■■ (横浜翠嵐)、■■■■ (横浜翠嵐)、
 ■■■■ (横浜翠嵐)、■■■■ (厚木)、■■■■ (小田原)、
 ■■■■ (小田原)、■■■■ (大和)、■■■■ (鎌倉)



POI 賞 (大和教頭 ■■■■先生と)

参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- 去年は実力不足を深く思い知らされ、ディベートが嫌いになるほど落ち込んだ。(今年は)リスニング、ジャッジ能力は格段に上がったと思う。【横浜翠嵐 2年】
- 教員の方々の忙しい中での企画への参加と協力、また委員会、財団の方々の心強い手助けに感謝させていただきます。【横浜翠嵐 2年】
- エキシビションを見て、次はこうしてみようか、こういう考えがあったのかなど、自分もまだまだ伸びしろがあることが分かった。来年も是非参加したいと思います。【横浜平沼 1年】
- 教員ディベートについては、リスニングテストでも受けているみたいだった。次は平沼の先生も・・・【横浜平沼 1年】
- 来年も参加したい。【横浜緑ヶ丘 1年】
- 教員の立場からのディベートも自分の視点と異なっていて面白かったです。【横浜緑ヶ丘 2年】
- 悔しかったのでもっと勉強して、出直してきます。【光陵 1年】
- 改めて英語を勉強して、もっと話せるようになりたいと思います。【川和 2年】
- 教師ディベート POI をもう少し引き受けた方が良かった。【川和 2年】
- 教員エキシビションディベートで先生たちのようにアドリブを入れたり、メモなしでスラスラと話せる英語力と気持ちの余裕が欲しいと思った。【柏陽 1年】
- 大変さよりもとても良い経験になって昨年度以上の充実感があつた。【横須賀 2年】
- 続けるたびに楽しいと思えるようになって良かった。教員ディベートでは、先生方のとても流ちょうな英語が素晴らしく、自分もそうなりたと思った。【横須賀 2年】
- 練習であり POI をやらなかったが、今日できてよかった。【鎌倉 1年】
- すごい人のディベートがたくさん聞けて参考になった。次は自分も賞を取りたいと思った。
【鎌倉 1年】
- 普段は対戦できない相手と対戦できて楽しかったです。【湘南 2年】
- プレパの時間でのポイントの立て方など、一からまたがんばっていきたいです！【湘南 1年】
- 先生方のディベートや上手な人のディベートを見ることが出来て良かった。今日一日でかなり成長できたと思う。【小田原 1年】
- 一ヶ月間くらいディベートをやってきて、英語運用能力が向上し、脳の刺激になった。また、初対面の人とコミュニケーションすることに慣れた。【平塚江南 1年】
- 教員の方では思ったより POI を受けていなくて、自分の考えを言う時間を増やそうとしていたと思った。【茅ヶ崎北稜 2年】
- 教員の方々のディベートは、大人だなあと感心させる、私たちとはレベルが一つ、二つ、いやもっと上のディベートが見れた気がします。【茅ヶ崎北稜 2年】
- エキシビションや、たくさんの賞があつて、やる人のモチベーションが上がりそうだった。
【相模原 2年】

- 高校人生最後のディベートが終わってさみしいけれど受験頑張ります。【相模原 3年】
- 授業では1回くらいクラスで分かれてやってみたいなと思いました。【希望ヶ丘 1年】
- とても悔しい結果ですがまたそれをバネに頑張りたいです。【厚木 2年】
- 先生のエキシビションでは、0po の3rd の人がおもしろかった。【厚木 2年】
- 授業にもぜひ取り入れてほしい【大和 1年】
- ディベートは話す・聞く・同時に考えることも一緒にするからとても勉強になった。【多摩 1年】
- 教員エキシビションディベートでは最後に面白いコメントなどがあって楽しかったです。【多摩 1年】

教員の声

- 生徒が前向きに取り組んでいた様子があった。活躍できる場面がある、と生徒が生き生きしてた。
【光陵】
- JUDGE の勉強をさせていただきました。【柏陽】
- 素晴らしいジャッジの方々に来ていただき、素晴らしい質のコメントをしていただけました。
【湘南】
- 対戦後のジャッジの方々のコメントや助言がとても勉強になりました。【茅ヶ崎北陵】
- 生徒も先生も限られた時間で、非常に多くの情報(意見)を伝えようとした様子が素晴らしいと思います。【平塚湘風】
- 日本人でも英語で人に物を伝えられることを実感しました。【横浜平沼】

2・2・6

平成 30 年度 学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ

英語 4 技能指導法研究会 第 5 回集合研修

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2018 年 12 月 3 日（金）15:00~17:00

場所 神奈川県立横浜平沼高等学校（大会議室）

参加者 12 校 16 名（横浜平沼 1、横浜緑ヶ丘 2、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 3、多摩 1、横須賀 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 1、相模原 2、厚木 1、大和 1）

平成 30 年度学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ、第 5 回「英語 4 技能指導法研究会」集合研修において、教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに横浜平沼高校教頭の橋井先生より、「即興型英語ディベートの手法を一つの参考に 4 技能指導法を各校で導入できるようにしてください」とのお言葉を頂戴しました。

今回の PDA による研修では、教員のためのジャッジレクチャーを体系的に説明し、その後、質疑応答の流れになりました。



PDA 講師によるジャッジの手法説明



他校の教員同士によるプレパレーション

講義はこれまでの学校での指導経験で得られた、生徒にとっていかに学習効果が得られるかを踏まえた内容で、ジャッジの心構えとして、準備時間中に生徒の緊張をほぐすこと、議論の内容を想定し、個人コメントのための気づきをメモしておくことや、自信を持って説明することなど、ディベートをむずかしいものと捉えがちな生徒への配慮の大事さを伝えました。更にその後勝敗の説明の仕方、パーソナルコメントの仕方など技術的なものを行いました。

教員からは「実際にディベートをして、どのように改善するかについて学べた。ジャッジの視点を学べたので、スピーチの時に気をつけることを知ることが出来ました」などの感想がありました。



レクチャーを活かした議論



ディベート実践の様子

参加者によるディベート実践では、2 テーブルに分けられました。各テーブルには、PDA スタッフと認定教育ジャッジの講師がジャッジとしてつきました。

論題は“Kanagawa Prefecture should make personnel changes in all high schools every 5 years. (神奈川県は高校の全教職員を5年毎で異動させるべきだ)”が発表されました。神奈川県の場合は、新任の教員は5年間異動することなく一校舎で学校の行事を一通り経験し、その後の人事異動については他府県と同様不特定の異動が行われます。5年単位での異動のメリット・デメリットを「公教育としての教育の質の均等化、マンネリ化や教育活動停滞の防止・活性化につながる」「勤務校への愛着心は育まれるべき、プロジェクトの遂行に影響する」などの教員に関わる問題を実際の例や比較を用いて論を展開していきました。



最後に教育委員会高校教育課の時乗専門員より最後にお言葉をいただきました。

「ディベートをするというのが目的ではなく、ディベートという手法を使って、各学校の授業の一連の中で生徒の4技能を育てていただけたらと思います。昨年以上に今年は各学校で積極的にディベートを採り入れた授業をやっているという聞いています。今年から来年に向けては如何に上手く授業の中で活用して生徒の力を高めていくのかという課題を、この研修をヒントにしてもらえたらと思います。」

ベストディベーターに選ばれた先生方（第5回研修会）

先生（大和）

先生（厚木）

先生（横須賀）

先生（横浜緑ヶ丘）

2・2・7

平成 30 年度 学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ

英語 4 技能指導法研究会 第 6 回集合研修

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2019 年 1 月 11 日（金）15:00~17:00

場所 神奈川県立横浜平沼高等学校（大会議室）

参加者 13 校 18 名（横浜平沼 3、横浜緑ヶ丘 2、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 2、平塚江南 1、鎌倉 1、湘南 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 1、相模原 2、厚木 1、大和 1）

平成 30 年度学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ、第 6 回「英語 4 技能指導法研究会」集合研修において、本年度最終教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、機関校の横浜平沼高校校長、鑑先生よりお話がありました。「11 月 3 日の 17 校での PDA 即興型英語ディベート交流大会は生徒達にも非常に良い経験になったと思います。昨日 17 校の学力向上進学重点校およびエントリー校の連絡協議会が開かれ、校長と教育委員会の方で話し合いました。来年度も引き続き先生方に力をつけていただいて、生徒に還元する。各学校で普及させていく。同時に全県にむけてこのディベートを引き続き、4 技能を高める授業を、即興型英語ディベート授業を用いて導入できるようになればと思います」と述べられました。

次に、スカイプによる遠隔で代表理事の中川智皓（大阪府立大学工学研究科機械工学分野准教授）よりメッセージがありました。「生徒の皆さんがディベート実践されるときは、大人がみて上手くいっていると思わないこともあるかも知れませんが、生徒の中では大きな変容が感じられています。まずは勇気を持って授業で実践してみることにチャレンジしてみてください。」



横浜平沼高校 校長鑑先生のご挨拶



中川氏（大阪府立大学工学研究科准教授）の言葉

本年度最終の参加者によるディベート実践ですが、2 テーブルに分かれました。

論題は“Teachers should be allowed to be in romantic relationship with students. (先生と生徒の恋愛は許されるべきだ。)”です。これまでのディベート実践の集大成としてチームが一致団結して、議論を出し合っていくことができました。また、教員によるジャッジも実施し、研修の成果を披露することが出来ました。



他校の教員同士のプレパレーション



ディベート中の質疑応答 (POI)



マナーを踏まえたスピーチ



教員によるジャッジ



ディベートの最後はお互いをたたえ合う握手



本研修参加教員による感想



教育委員会高校教育課の時乗専門員のお言葉

今回ベストディベーターに選ばれた教員から、本研修の感想をいただきました。

「ディベートはやってみないと分からない、生徒にもこのような機会を与えて挑戦させたいと思います。また他校の教員同士が集まって一緒に研修する貴重な機会を与えてもらい感謝します（厚木教員）」

「研修のほとんどを参加させてもらいました。最初は緊張しましたが、少しずつ、回数をこなすとなれていく。生徒の方にも 1 回やってダメだからではなく、少しずつやっていこうって励ましていくのが大事だと思いました。続けていくことの大事さを学びました（茅ヶ崎北陵教員）」

「生徒にもひとつひとつ、次はこれをできるように！などの振り返りをさせていき、今より上手になっていくのかなということを実感しました（平塚江南教員）」

「ディベートは生徒を伸ばしていく素材がたくさん入っている。どうしても話さないと行けない機会をつくることの大事さを自分の教育現場に活かしていきたいです（横浜緑ヶ丘教員）」

最後に、神奈川県教育委員会高校教育課の時乗専門員より閉会のご挨拶をいただきました。

「これからの生徒にとって、話さざるを得ない環境を与えることが大事です。これまでの即興型英語ディベート研修を参考にして、授業に採り入れていただき、各学校の状況に合うようにアレンジして、レギュラーの授業の中で 4 技能を生徒にどう活かすか、育てていくかをこれから挑戦していただきたい。来年度は授業実践を各学校で活性化していただくことを願っております」

ベストディベーターに選ばれた先生方（第6回研修会）

先生（厚木）

先生（茅ヶ崎北陵）

先生（平塚江南）

先生（横浜緑ヶ丘高校）

2・3・1

平成 30 年度 神奈川県立高等学校・県立中等教育学校教員対象

即興型英語ディベート教員研修会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2018 年 9 月 26 日（水）15:00~17:00

場所 神奈川県立横浜平沼伊志田高等学校 （2 階会議室）

参加者 20 校 31 名（横浜桜陽 1、柏陽 2、平塚工科 1、平塚商業 1、平塚湘風 1、七里ガ浜 1、相模原 2、橋本 1、秦野曽屋 1、厚木東 1、厚木商業 1、厚木北 1、厚木清南(定)1、厚木西 2、伊勢原 1、伊志田 6、有馬 3、座間 1、大磯 1、二宮 1、アカデミア 1）

生徒の英語による発信能力向上に向けた授業改善の一環として、神奈川県立高等学校・県立中等教育学校教員を対象とした、「平成 30 年度即興型英語ディベート教員研修会」第 1 回集合研修が開催されました。

はじめに、伊志田高校（神奈川県立学校長会長）の久保田校長先生より、「生徒にとって非常に有用な取り組みであるディベート活動ですが、進学重点校では既に根付いており、神奈川県全体の高校にも広がっていくことを願い、このような場を設けました。実際の授業の場で生徒の技能向上に役立つ一助となれば幸いです」とのお話をいただきました。

続いて教頭の高橋先生より本取組み、PDA 講師紹介のあと、早速講義が開始されました。



伊志田高校 久保田校長のご挨拶



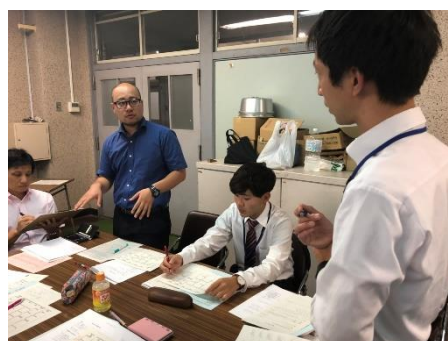
他校教員同士でのプレパレーション

PDA による研修では、ディベート推進委員長の大賀隆次より、昨今の英語教育事情、次期学習指導要領での新科目案「論理・表現」についてもふれ、今後英語を話す環境が生徒にとってより必要になることと、即興型英語ディベートの指導の有用性の指摘がありました。即興型英語ディベートのルール、それを通して身につく力、授業での導入方法について説明がなされました。

参加者によるディベート実践では、4 テーブルに分かれました。各テーブルには、認定教育ジャッジの講師と、ジャッジ経験のある教員がジャッジとしてつきました。論題“High school students should have part-time jobs. (高校生はアルバイトをすべきである。)”が発表されると、それまでの緊張感のある静かな会場内の雰囲気が変わり、その日初めて会話する先生方がチームで一致団結して、議論を出し合っていくことができました。論点を2つにまとめ、その後、担当ごとにわかれ、それぞれの論点の詳細をスピーチシートに記入していきます。準備時間 15 分が終わるとすぐにディベートが始まります。ディベートでは、初挑戦にもかかわらず P O I (質疑応答) をするテーブルもありました。さまざまな意見が出たディベートでした。



ディベート実践のようす



ディベート中での質疑応答

ディベート終了後には、笑顔で対戦相手と握手を交わし、和やかに会話がなされました。最後に、ジャッジからの勝敗、その理由、個人コメントが行われました。開始早々全体の静かな様子から、教員も他校の教員と打ち解け、ラウンド終了後には全てのテーブルで和気藹々としたとても良い雰囲気で会話が交わされました。

ディベート後は、ディベートを学校授業の一環として取り入れている高校の紹介と、授業において、教育的配慮を伴ったジャッジができる人材を PDA 認定教育ジャッジとして認定していく制度についても紹介されました。

次回第 2 回研修会は 10 月 22 日 (月) 15 時より、伊志田高校を会場にて行われる予定です。



教員の声（アンケートより抜粋）

- ・生徒達がどのような力が必要とされるかを実感すると共に、授業へアイデアをいただきました。
 - ・実際にやってみてイメージを体感できた。
 - ・はじめは緊張してしまったが、終わってみれば達成感があつた。この経験をぜひ生徒にもさせたい。
 - ・ぜひ、どうにかして授業に活かせないか考えてみます。
 - ・生徒の気分でディベートを体験し、教員として何を注意すべきであるか身をもって知ることができた。
 - ・ルールがわかりやすく、初めてだったが取り組みやすいものと思った。自校の生徒には難しそうで工夫が必要と思った。
 - ・まず自分が経験できたことが非常に良かった。生徒の立場になって経験できたのが大きい。
 - ・ディベート自体はほとんど初めてだったので、大変良い機会となりました。良い緊張感の中で行うことで、生徒にとってもとても良い活動になると思いました。
 - ・もう一回やってみたいと思える楽しさでした。
 - ・
 - ・とても勉強になりました。参加して良かったです。
 - ・2回目も楽しみにしております。
-

9月26日に選ばれたベストディベーターの皆さん

〈1回目〉

先生（平塚湘風）
先生（七里ガ浜）
先生（秦野曾屋）
先生（厚木北）
先生（伊志田）
先生（有馬）
先生（座間）
先生（大磯）

2・3・2

平成 30 年度 神奈川県立高等学校・県立中等教育学校教員対象

即興型英語ディベート教員研修会（第 2 回）

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

（文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」）

日時 2018 年 10 月 22 日（月）15:00~17:00

場所 神奈川県立伊志田高等学校（2 階会議室）

参加者 19 校 30 名（柏陽 1、平塚工科 1、平塚商業 1、平塚湘風 1、七里ガ浜 1、相模原 2、橋本 1、秦野曽屋 1、厚木東 1、厚木清南(定)1、厚木西 2、伊勢原 1、伊志田 6、海老名 1、有馬 3、座間 2、大磯 1、海老名 1、国際言語文化アカデミア 1）

神奈川県立高等学校・県立中等教育学校教員を対象とした、「平成 30 年度即興型英語ディベート教員研修会」第 2 回集合研修が 10 月 22 日開催されました。

前回同様、伊志田高校の久保田校長先生（神奈川県立学校長会長・全国高等学校長協会副会長）より「自分で考え論理的に話すこと、自分の理屈でしっかりと話すことが大事、本日の研修内容を各学校に持ち帰り、活かしてください」とのご挨拶がありました。

続いて高橋教頭先生より全体注意事項の説明後、早速ディベート実践が開始されました。



伊志田高校 久保田校長のご挨拶



教員によるディベート実践の様子

PDA によるディベート実践研修では、4 テーブルに分かれ、教員全員が話さざるを得ない環境のもと、“Convenience stores should be closed late at night.（コンビニの深夜営業を廃止すべきだ。）”の論題について議論がなされました。この日が 2 回目の先生、初めてのディベート体験の先生たちがチーム一丸となって話し合い、上手にコミュニケーションをとりながら論点をまとめ上げ、スピーチを作成していきます。

今回のディベートでも P O I（質疑応答）を活用するテーブルがありました。しっかりと論理構成がなされたスピーチの内容で、全てのテーブルで前回からの伸長がみられるディベートでした。ディベート後は認定教育ジャッジの教員、PDA スタッフ、さらにスカイプによる遠隔システムにて全体講評、個人コメントのジャッジがなされました。

ディベート実践後、休憩をはさみ、ジャッジについての講義がなされました。

講義は PDA 高校生即興型英語ディベートセミナーで全国の高校生にジャッジをしているスタッフより行われました。ディベートを通して得られる教育効果を自らの高校、大学生活の体験を元に説明をしました。次に、ジャッジの心構え、勝敗の説明の仕方、生徒に配慮した個人コメントの方法の解説がなされました。

講義後の質疑応答では、教員から如何に授業に落とし込むかの質問内容があり、授業での参考にしようとする前向きな姿勢が見受けられました。



ディベート実践のようす



ディベート中での質疑応答

まとめでは、ディベートをする際のスピーチに不安のある生徒に対しての対応や、生徒への褒め方の説明がありました。論題を発せない生徒に対して、励ますことの重要性、ディベートをすることを恐れず挑戦することの大事さが述べられました。

最後に、高校教育課の時乗先生より、「これからの教育は『脱正解主義』。今までの枠にとられない、即興型英語ディベートの新しい取組みを各学校に持ち帰り、一つでも実践していただき、今の教育を変える原動力としてください」とのお言葉を頂戴いたしました。

研修終了後は、今日初めて会った先生方が和やかに会話をし、笑顔で高校を後にする姿が印象的でした。

2 回シリーズで行われました教員のための即興型英語ディベート研修が終了いたしました。



PDA スタッフのジャッジ



教育委員会高校教育課 時乗先生のご挨拶

教員の声（アンケートより抜粋）

- ・教員がジャッジをする想案と同時に、生徒にジャッジをさせる時にどのような点から意識させていくべきかを考えていきたいです。
 - ・様々な経験年数の先生と実践的な英語表現をするという機会がこれまでなかったので、そういう意味でもたいへんよかったです。
 - ・自分の英語力に自信がなく不安でいっぱいでしたが、チームで参加しているというのと次第に楽しさの方が増して自分が思っていたよりも議論することができました。
 - ・ジャッジ側になった際は、生徒の不安を取り除いたり、最後のコメントの際に意見を列挙することで安心感を与えられるようになりたいと思いました。
 - ・2回とも参加しましたが、前回よりも少しだけ自分の成長を感じることができました。
 - ・ディベートを通して生徒の発話を促したり、自信をつけさせたりすることが大きな目的であることが感じられました。
 - ・実際にやってみることで分かることがあると思うので、2回目のディベートでしたが楽しかったです。ジャッジの重要性も感じました。
 - ・2回開催ではもったいないくらい充実した内容でした。また参加したいです。
 - ・英語を話すのが苦手な生徒への褒め方を学べた。
 - ・前回と比べて相手に反論する、ということに挑戦できました。またジャッジの視点を学び、生徒にどう伝えるかがわかりました。
 - ・自分がやることを通じて、どう指導すればいいのかが分かったと思います。
 - ・英語が苦手な生徒に対して、「励ます」ということの大切さを自動車学校の例などを見ながら学べたのがよかった。
-

10月22日に選ばれたベストディベーターの皆さん

〈1回目〉

先生（大磯）
先生（有馬）
先生（アカデミア）
先生（平塚商業）
先生（相模原）
先生（伊志田）
先生（有馬）
先生（厚木清南（定時制））

3. 考察

3・1 オンライン研修における考察

遠隔研修として、zoom を用いた即興型英語ディベートのオンライン研修プログラムを提案、実施した。遠隔システムを用いても、ディベート実践およびジャッジ実践が行えることを確認した。技術的な問題はほとんどないものの、以下が課題として挙げられる。

- 開催日時の設定

今回、平日は放課後の時間帯（16 時～18 時）を設定したが、会議や急な仕事などで当日の欠席が目立った。休日の設定では、平日よりは急な欠席が少なかったものの学校行事等で欠席になってしまうケースもあった。オンラインとすることで、従来の実地研修であればこのような連続研修に参加できない参加者も全国から集まることができたため、急な欠席もあるが、オンラインだからこそ叶った出席のほうが大半ではある。オンライン研修の前後に学校業務があり、ギリギリ参加可能となった例も多々ある。また、有給をとって、オンライン研修に参加された例もあった。教員は常日頃多忙であるため、研修時間を確保することは容易ではない。よって、研修へより出席しやすくするためには、学校長に正式にオンライン研修への出席許可を取ることが一案として考えられる。（実地研修の神奈川県教育委員会の例では、公務として平日（金曜）15 時～17 時の研修に全 6 回参加できるよう整備されている。）

- レベルの設定

オンライン研修では、今回研修会数は 10 回とした。継続的に参加できる参加者と継続的には参加できない参加者で、レベルに大きな差がついた。また、過去の PDA の合宿や研修等の経験者の参加も多く、初心者が遠慮がちになってしまうことがあった。よって、今後、即興型英語ディベートを通じた教員の指導力には、大きな力量差がついてくることが考えられ、レベル分けや、一般の授業で基本的な指導ができるよう初心者に向けた研修に注力することも重要と考えられる。

3・2 実地研修における考察

神奈川県教育委員会と連携した実地研修では、昨年のプログラム内容を踏まえ、昨年の研修参加者が即興型英語ディベートの授業導入の紹介をするなどの時間を確保した。授業導入例は、参加者への有意義な勉強になったと考えられる。一方、昨年は1回2時間の研修時間に2回のディベート実践またはジャッジ実践を行い、教員自身が生徒の身になってスキルをアップさせるプログラムであったが、今年は1回の研修時間に1回のディベートまたはジャッジの実践となってしまったため、実践回数が十分でなく、スキルアップの実感が得られなかった懸念が残った。オンライン研修の紹介も行い、その併用も可能であったものの、ほとんどの参加者はPDA認定教育ジャッジ試験受験に必要な実践回数をクリアすることができなかった。よって、スキルアップの実感がより得られるように、またPDA認定教育ジャッジの輩出に向けては、研修参加校からはできるだけ同一の教員が参加すること、実践回数がある程度確保できるようプログラムを周知することが考えられる。

一方、交流大会等を通し、実際に生徒がディベートする場で教員がジャッジを行う機会を設けたことで、生徒の様子を見ながら指導力の向上に向けたトレーニングができたことは、生徒・教員両者にとって有意義となった。

3・3 有識者コメント

有識者コメントとして、年間を通して、多数の教員研修を企画・運営されている京都府総合教育センター 研修・支援部 研究主事兼指導主事 大槻裕代氏より、即興型英語ディベートに関するコメントをいただく。同センターでは、即興型英語ディベートを用いた研修をすでに2年にわたり開催している。全国ではじめて初任者研修のプログラムに即興型英語ディベートを導入したことが特徴である。

有識者コメント

京都府総合教育センターでの取組 ～即興型英語ディベートの初任者研修への導入～

京都府総合教育センター 研修・支援部
研究主事兼指導主事 大槻裕代

京都府総合教育センターは、京都府が設置する教育に関する研究及び教育関係職員の研修を行う機関である。平成 29 年度、平成 30 年度に、即興型英語ディベートを取り入れた教員研修を行い、平成 31 年度にも当該研修を予定している。研修内容は、新学習指導要領を踏まえ、即興型英語ディベートの手法を学び、また実際に教員がそれを体験する形である。

1. 平成 29 年度の研修

対象：中学校・高等学校教員（希望者）

外国語担当向けの研修であったが、他教科（理科）担当教員の参加もあった。

研修をしてよかった点は、

- ・ 内容がディベートのノウハウだけでなく、新学習指導要領を踏まえ、言語活動に即興性が重視されること、また高等学校においては「論理・表現」の科目案の中での使用が期待されることなど、今後の指針を踏まえた説明がなされたこと。
- ・ ディベートの理論だけでなく、50 分の授業の中でできる流れの説明、そして教員自身がディベート実践及びジャッジ実践を体験できたこと。
- ・ 特に、ディベート後のフィードバックとして、どのように建設的なコメントを生徒にすればよいかの事例を講師より学べたこと。

である。

2. 平成 30 年度の研修

対象：中学校・高等学校教員（希望者）＋高等学校教員初任者（悉皆研修）

平成 29 年度との大きな違いは、初任者研修（高等学校）も位置付けた点である。新学習指導要領を踏まえると、即興的な力を身に付けることの重要性は増し、外国語担当の初任者に対して必修とした。一般講座（希望者対象）に初任者研修を合同して実施した成果として、経験のある教員との合同講座となり協働での学びが生まれ、特に初任者において、先輩教員からの様々な助言を得る機会となり、同時に意見交換等もできたことがあげられる。同時に、先輩教員も柔軟に学ぼうとする初任者に刺激を受け相互の学びとなっていた。

3. 平成 31 年度の研修（予定）

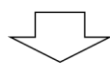
対象：中学校・高等学校教員（希望者）＋中学校・高等学校教員初任者（悉皆研修）

平成 30 年度の高校教員に対する初任者研修を中学校教員にも広げる。中学校においても、即興的な力を生徒に付けていくための言語活動が求められ、また、スムーズに高校での学びにつなげるため、中学校教員についても初任者研修で即興型英語ディベートを学ぶ。中学校・高等学校の教員が共同で研修に参加することにより、中高連携の意見交換もしやすくなる。

なお、初任者研修とは、法定研修であり、初任者は悉皆で参加となる。京都府の初任者研修で設定している教科教育 7 回のうち、1 回（午後）に、当該即興型英語ディベートの研修を設定している。図 1 に研修対象者を示す。

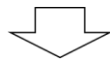
2017年度

	中学	高校
希望者	対象	
初任者（悉皆）		



2018年度

	中学	高校
希望者	対象	
初任者（悉皆）		対象



2019年度

	中学	高校
希望者	対象	
初任者（悉皆）		

図 1 研修対象者

おわりに

本事業では、「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」をテーマに多くの関係者の皆様と協同して、教員の即興型英語ディベートに関する研修・調査を行いました。働き方改革など、学校現場でも効果的で効率的な教育・研修が求められる時世となってきました。時代に合わせた研修方法の一つとして、本事業では遠隔システムを用いた即興型英語ディベートの研修を取り入れました。本事業で得られた知見が、今後多くの地域において活用されましたら幸甚です。

本調査研究および報告書作成にあたり、貴重なご意見、ご助言をくださりました教育委員会はじめ多くの教員、関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

代表理事 中川 智皓

【PDA 認定】教育ジャッジについて

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

パーラメンタリーディベートを社会に広く効果的に推進するため、PDA ではジャッジの認定制度を導入します。特に、中学・高等学校を中心とした授業におけるパーラメンタリーディベートの導入をサポートしていきます。

【PDA 認定】教育ジャッジとは、主に中学・高等学校の授業で使用されるパーラメンタリーディベート（即興型英語ディベート）のフォーマット（ここでは、ショートと呼びます）の下、教育的な指導ができる認定ジャッジのことです。PDA は、授業や公式大会においてジャッジが求められる際、認定を受けた教育ジャッジを推薦します。

【教育ジャッジ認定試験の受験資格】

1. 大学生以上。PDA 個人会員であること。
2. ディベートおよびジャッジの実践経験
 - (1) ディベート実践（ショート）を 6 回以上。
 - (2) ジャッジ実践（ショート）を 6 回以上（内、3 回以上を PDA 公認の授業現場において実践）※PDA およびそれに準ずる研修会での実践とします。

【認定試験】

- (1) 筆記試験
 - ルール
 - ジャッジとしての心構え等
- (2) ディベート実技（ショート）
 - 基本的な構成のスピーチができる。
 - タイムマネジメントができる。
 - POI を 1 回以上出せる。
 - POI を 1 回以上受け、適切な返答ができる。
 - アイコンタクトがある。（スピーチ時間の 50%以上）
 - 説明において大きな論理の飛躍が見られない。
- (3) ジャッジ実技（ショート）
 - 司会進行ができる。
 - 授業時間を考慮したタイムマネジメントができる。
 - 勝敗を出せる。
 - 論理的にある程度納得できる勝敗の理由を述べられる。
 - 建設的な個人コメントを述べられる。
 - 教育的配慮に欠けない。

ディベートのルール

(1) 概要

ある 1 つの論題が与えられ、肯定側チーム(Government)と否定側チーム(Opposition)に分かれ、一般聴衆であるジャッジを説得する。肯定側か否定側かは主催者によって決められ、ディベーター自身で選ぶことはできない。より説得力（議論の中身，説明の仕方など）があったチームが勝ちとなる。

(2) ディベーターの人数

各チーム 3 名の計 6 名。それぞれの役割名と内容を図 1 に示す。

(3) 準備時間 (Preparation Time)

15 分

(4) スピーカの順番、時間

スピーチの順番は図 1 の矢印の通りである。スピーチ時間は、3 分または 2 分である。ただし、前後 30 秒は許容範囲である。ジャッジはスピーチの終了時間の 30 秒前に 1 回ノック、スピーチ終了時間に 2 回ノック、終了時間 30 秒後にはノックをし続ける。(例えば、3 分のスピーチであれば、2:30 で 1 回ノック、3:00 で 2 回ノック、3:30 でノック継続)

スピーカとスピーカの間には、準備時間はない。スピーカはジャッジに呼ばれれば、速やかに演台に移動する。

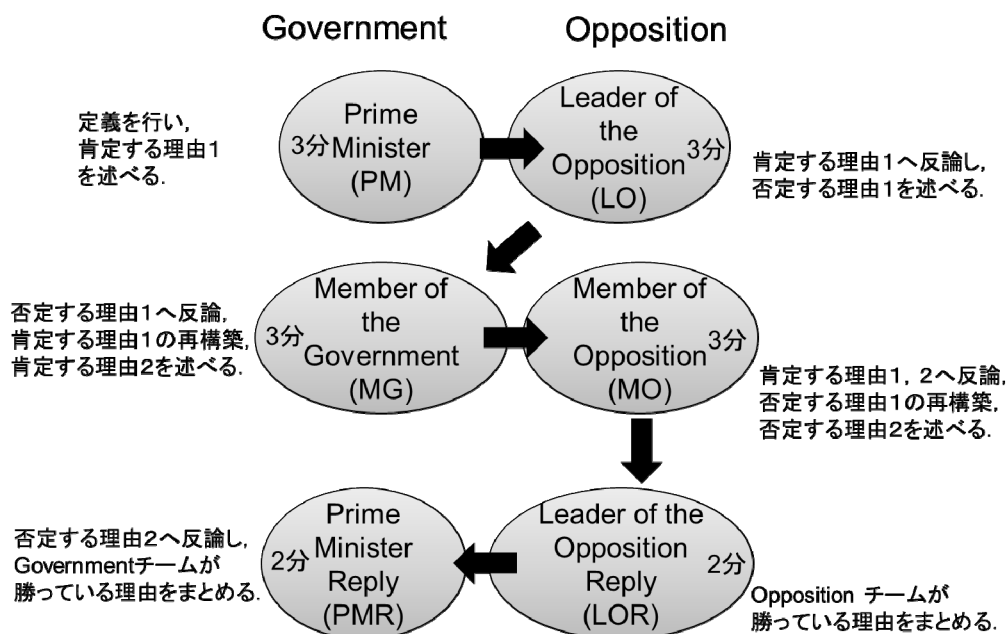


図 1 ディベート概略図

(5) スピーチ内容

最初の 4 つのスピーチを Constructive Speech (立論), 後の 2 つのスピーチを Reply Speech (まとめ) という。Constructive Speech ではどのような論点を述べてもよいが, 基本的に Reply Speech では, Constructive Speech で述べていない新しい論点は出せない。

(6) 質疑応答 (POI, Point of Information)

相手チームのスピーチ中に, 質問やコメントを 15 秒以内で発言することができる。それを Point of Information (POI) といい, “On the point, sir” や “POI” などと声をかけ, 質問する。質問を受けるか否かは, スピーカが決めることができ, 受ける場合は “Yes, please.”, 受けない場合は “No thank you.” などのように答える。

なお, POI はいつ行ってもよい。ただし, POI をして一旦断られた場合は, その 15 秒後以降から再度 POI をすることができる。POI の間もストップウォッチの時間は止めない。

(7) ディベート終了後

ディベートラウンドが終了すれば, 対戦相手と握手を交わす。

(8) ジャッジ

ジャッジは, 新聞を読んでいれば分かる一般的な知識を持つ人と想定する。個人的な考え, 専門知識, 偏見をできるだけ排除し, 客観的に判定する。基準は主に「内容」と「表現」の 2 つである。

<内容>

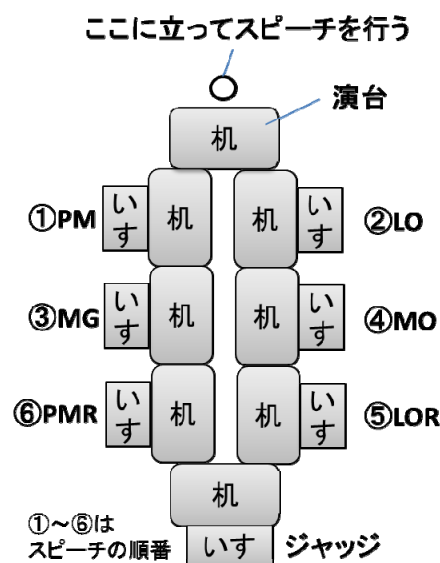
- ・ 主張に理由があったか
- ・ 反論があったか
- ・ 例やデータを用いて, 十分に説明をしているか
- ・ POI で積極的に議論しているか

<表現>

- ・ はっきりと分かりやすい言葉で話しているか (声の大きさ, スピード, アイコンタクト, 身振り手振りなど)
- ・ 構成は分かりやすいか (論点の順番, ナンバリング, サインポスト)
- ・ スピーカの役割を果たしているか

(9) その他

- ・ スピーチは前で立って行う。
- ・ スピーチ中は, チームメイトと話せない。
- ・ POI を行う時は立つ。断られれば座る。
- ・ スピーカの順番は, 論題発表前に決めておく。



スピーチシート

Prime Minister (PM) (肯定側 1 番目)

挨拶 Hello everyone.

お題 Today's topic is

論題を記入する

定義 We define the motion as follows.

定義を必要とする
事柄があれば定義
する

肯定ポイントの数の確認 We have two points.

肯定ポイント 1 の
題名を記入する

肯定ポイント 1 の名前 The 1st point is

肯定ポイント 2 の
題名を記入する

肯定ポイント 2 の名前 The 2nd point is

肯定ポイント 1 の説明 I will explain the 1st point

肯定ポイント 1 の
題名を記入する

We believe that

肯定ポイント 1 の
具体的な説明を記
入する

論題を記入する
(肯定)

結論 Therefore,

終わりの挨拶 Thank you.

Leader of the Opposition (LO) (否定側 1 番目)

挨拶 Hello everyone.

否定側の方針確認 We believe that

論題の否定文を記入する

肯定ポイント 1 への反論 Let me rebut what the Government team said.

They said

PM で述べられた肯定ポイント 1 を記入する

However,

肯定ポイント 1 への反論を記入する

Therefore,

肯定ポイント 1 が成立しないという結論を記入する

否定ポイントの数の確認 Next, let me explain our points. We have two points.

否定ポイント 1 の題名を記入する

否定ポイント 1 の名前 The 1st point is

否定ポイント 2 の題名を記入する

否定ポイント 2 の名前 The 2nd point is

否定ポイント 1 の題名を記入する

否定ポイント 1 の説明 I will explain the 1st point

We believe that

否定ポイント 1 の具体的な説明を記入する

論題の否定を記入する

結論 Therefore,

終わりの挨拶 Thank you.

評価項目

高等学校学習指導要領 英語表現Ⅰ、Ⅱの目標(抜粋)「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。」
「論理の展開」＝内容、「表現の方法」＝表現の2つに分けて、評価する。

内容	文部科学省 学習指導要領との対応
主張に理由があったか。	英語表現Ⅱ2(1)イ 論点や根拠などを明確にする
反論があったか。(PMは除外)	英語表現Ⅱ2(1)ウ 発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べ合う。英語表現Ⅱ2(1)エ 相手を説得するために意見を述べ合う。
簡単な例やデータを用いる等で、十分に説明をしていたか。	英語表現Ⅱ2(1)ウ 学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。
論題との関連性を考慮できていたか。	英語表現Ⅱ1目標 事実や意見など多様な観点から考察 英語表現Ⅱ2(1)ア 「与えられた条件に合わせて」、即興で話す。

表現	文部科学省 学習指導要領との対応
はっきりと分かりやすい言葉で話しているか。(声の大きさ、スピード)	英語表現Ⅰ2(2)ア 話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと
Non-Verbal Expressionで聴衆を意識しているか(アイコンタクト、身振り手振り)	英語表現Ⅱ2(2)ウ 「発表の仕方」や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。
構成は分かりやすいか(論点の順番、ナンバリング、サインポスト、タイムマネジメント)	英語表現Ⅱ2(1)ア 「伝えたい内容を整理して」論理的に話す。
スピーカの役割を果たしているか。	英語表現Ⅰ2(1)ア 目的に応じて簡潔に話す

本大会におけるPOI賞について

POI(質疑応答)を通した議論参加への積極性を評価します。

POI	文部科学省 学習指導要領との対応
POIで質問・コメントを出すタイミング、回数、その内容において、最も評価できる人をPOI賞に選んでください。	英語表現Ⅰ、Ⅱ、英語会話 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成 英語表現Ⅱ2(1)ウ 発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べ合う。

評価基準

内容	基準	例
0	一言も発しない。	
1	ほとんど何も言っていない。	・挨拶のみ、論題を読むだけ。
2	大部分の内容が分かりづらい。説明量がかなり少ない。	・内容が、主張の1～2文のみ。
3	内容に分かりづらい部分があり、評価項目の半分以上が全くできていない。	・理由がない。反論がない。論理が飛躍している。などの問題点が多く見られる。 ・実質的なスピーチ時間が30秒以下。
4	内容に分かりづらい部分があるが、評価項目の半分程度が最低限できている。	・内容の質はともかく、何らかの理由がある。または何らかの反論がある。など話すべき事項の半分程度がなされた。 ・しかし、それ以上の説明が乏しく、内容が具体的ではない。
5	内容はほとんど分かるが、評価項目のうちできていない点の一部ある。	・論理がある程度通っている。 ・しかし、立論はできたが、反論ができなかった。立論や反論はできたが、論題との関連性は薄かった。反論はあるが、関連性がなく、反論ではなく「主張」になってしまっている。繰り返しが多い。等の問題点がある。 ・実質的なスピーチ時間が、2分半に満たない。
6	内容はほとんど分かり、全ての評価項目について、最低限できている。	・論理がある程度通っており、最低限の立論ができている。反論も関連性が認められる。 ・実質的なスピーチ時間が、2分半を満たす。
7	内容が分かり易く、全ての評価項目について、大体できている。	・論理が通っており、立論、反論が具体的にできている。論題との関連性もある。 ・PMの場合は、現状分析のある主張ができている。等
8	内容が分かり易く、評価項目の半分以上が効果的にできている。	・論理が通っており、効果的な立論と反論が目立つ。比較を入れて自分の主張を強めることができている。 ・PMの場合は、立論の際に、特にチームスタンス、丁寧な現状分析、比較を入れた説明ができている。等
9	内容が非常に分かり易く、評価項目のほとんどが効果的にできている。	・いずれの内容も具体的で、効果的である。説明すべてが非常に分かりやすい。 ・相手チームの視点を踏まえた分析で主張や反論を深めている。等
10	評価項目の全てが完璧にできており、内容に非の打ちどころがない。	・いずれの内容も完璧で、改善のコメントが特にない。

表現	基準	例
0	前に出ない。	
1	ほとんど聞こえない。	・声がかなり小さい。始終顔が下を向いている。またはスピーチシートで顔が全く見えない。
2	とても聞きづらい。	・声が小さい時間が多く、聞きにくい。顔は下を向いていることが多い。
3	聞きづらい部分があり、評価項目の半分以上が全くできていない。	・声が時々聞こえない。 ・ナンバリング、サインポストがない。どこについて話しているか分からない。スピーカの役割ができている。
4	聞きづらい部分があるが、評価項目の半分程度が最低限できている。	・声が時々聞こえないこともあるが、大体の構成はできている。 ・棒読みが目立つ。
5	大体聞き取ることができるが、評価項目のうちできていない点の一部ある。	・声は聞き取ることができる。 ・構成、サインポスト、アイコンタクト、スピーカーの役割でできていない点の一部ある。
6	大体聞き取れ、全ての評価項目について、最低限できている。	・声は聞き取れ、最低限の構成、アイコンタクトができている。スピーカの役割も最低限果たせている。
7	聞きやすく、全ての評価項目について、大体できている。	・スピーチが聞きやすく、アイコンタクトや身振り手振りも大体できている。構成やスピーカの役割も大体できている。 ・落ち着いてスピーチができている。
8	聞きやすく、評価項目の半分以上が効果的にできている。	・堂々とスピーチができ、説得力の増す身振り手ぶりが目立つ。構成やスピーカの役割も効果的にできている。
9	非常に聞きやすく、評価項目のほとんどが効果的にできている。	・いずれの表現も効果的で、非常に聞きやすい。 ・ただし、マイナーエラーがある。
10	評価項目の全てが完璧にできており、表現の仕方に非の打ちどころがない。	・いずれの表現も完璧で、改善のコメントが特にない。

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）が実施した平成 30 年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

文部科学省初等中等教育局教職員課 公募

平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業 採択プログラム

「即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発」

平成 30 年度 成果報告書

発行 一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

発行日 平成 31 年 3 月

599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学 工学研究科 中川研究室内

電話 072-254-9220

FAX 072-254-9904